

平成 26 年度第 2 回
鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会

日時：平成 26 年 11 月 26 日（水）
午後 3 時～

会場：鶴岡市総合保健福祉センター
大会議室

《次 第》

1 開 会

2 挨 拶

3 協 議

(1) 地域コミュニティ推進計画（仮称）について

①計画策定の進め方等

②各地域のコミュニティの現状・課題等

(2) その他

4 そ の 他

5 閉 会

鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員名簿

	氏 名	役 職	備 考
1	三矢 正士	鶴岡市町内会連合会常務理事	副委員長
2	畠山 健	鶴岡市消防団副団長	
3	半澤 活	鶴岡市社会福祉協議会地域福祉課長	
4	小林 和男	鶴岡市社会教育委員長	
5	清野 康子	鶴岡市生涯学習推進員	
6	阿部 等	(特)公益のふるさと創り鶴岡常務理事	
7	田口 比呂貴	鶴岡市地域おこし協力隊	
8	早尻 正宏	山形大学農学部准教授	
9	武田 真理子	東北公益文科大学准教授	委員長
10	松浦 伸	藤島中学校前PTA会長	
11	加藤 欣也	鶴岡まちづくり塾羽黒グループ	
12	鈴木 光秀	産直あぐり取締役	
13	小関 祐二	六十里越街道会議会長	
14	斎藤 優子	あつみ湯けむり女子会会長	
15	仲川 昌夫	公募委員	
16	阿部 甚一	公募委員	
17	平田 充廣	公募委員	

鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会幹事名簿

H26. 4

	所 属	職名	氏 名	備考
1	市民部	部長	川畑 仁	
2	政策企画課	課長	高橋 健彦	
3	地域振興課	課長	阿部 真一	代理：齋藤地域振興専門員
4	防災安全課	課長	阿部 一也	
5	環境課	課長	五十嵐 満	
6	廃棄物対策課	課長	中村 賢	
7	健康課	課長	原田 真弓	
8	福祉課	課長	相澤 康夫	代理：五十嵐課長補佐
9	長寿介護課	課長	佐藤 正規	
10	農政課	課長	富樫 栄一	
11	商工課	課長	増田 亨	
12	土木課	課長	佐藤 正明	
13	藤島庁舎総務企画課	課長	本間 光夫	
14	羽黒庁舎総務企画課	課長	阿部 寛	
15	櫛引庁舎総務企画課	課長	菊地 ゆかり	
16	朝日庁舎総務企画課	課長	佐藤 利浩	
17	温海庁舎総務企画課	課長	五十嵐 勇一	
18	消防本部警防課	課長	佐藤 巖	
19	教育委員会学校教育課	課長	生田 浩樹	欠席
20	教育委員会社会教育課	課長	榊原 賢一	代理：五十嵐社会教育係長

事務局：コミュニティ推進課

職 名	氏 名
課長	小野寺 雄次
コミュニティ主任	加藤 保
主査	佐藤 玲子
主査	五十嵐 泰彦
コミュニティ専門員	渡部 幸一
主任	五十嵐 哲夫

庁舎総務企画課

職 名	氏 名
(藤島)コミュニティ防災主査	黒井 浩之
(羽黒)コミュニティ防災主査	伊原 千佳子
(櫛引)コミュニティ防災専門員	鈴木 賢
(朝日)専門員	難波 陽登
(温海)コミュニティ防災主査	粕谷 一郎

地域コミュニティ推進計画(仮称)作成方針(案)

- 地域コミュニティ推進計画(仮称)は、地域コミュニティ基本方針(以下、基本方針)に記載の「基本理念」及び「目指すコミュニティ像」を実現するための計画である。

《基本理念》

市民がまちづくりの主役として、個性あふれ豊かさを実感できる地域社会を築く地域コミュニティの構築

《目指すコミュニティ像》

- ・笑顔であいさつを交わす心の通った地域コミュニティ
- ・より良い地域環境を築くため、皆が力を合わせる地域コミュニティ
- ・地域課題の解決に向け、住民が主体的に取り組む確かな地域コミュニティ
- ・地域ごとの異なる文化や歴史を尊重し、個性あふれる地域コミュニティ

実現するものは一緒だが、地域毎に事情・特性(地域資源、組織、人材、抱える問題・課題等)は様々であり、取り組みの内容・形態は、それぞれ独自の“カタチ(=計画)”をとることとなる。

1. 地域コミュニティをめぐる現状を整理する(地域の事情や特性を知る)。

地域コミュニティをめぐる現状

- | | | |
|-----------------------|------------------|------------------|
| (1) 地域の世帯数、人口、人口構成の推移 | (2) 単位自治組織の世帯数規模 | (5) コミュニティ活動関係施設 |
| | (3) 単位自治組織の加入率 | (6) 各地域のその他の特記事項 |
| | (4) 住民自治組織の形態 | |

2. 地域資源を明確にする。

地域資源の明確化

- | | |
|--|-----------------------------|
| (1) 主な固定資産
①自然資源 ②歴史的資源 ③文化・社会資源
④施設資源 ⑤人的資源 ⑥情報資源 | (2) 主な流動資源
①特産的資源 ②中間生産物 |
|--|-----------------------------|

3. 上記目的、1及び2を踏まえ、基本方針に定める「目指すコミュニティ像」の実現に向け、地域コミュニティが抱える問題意識や課題を整理する。

基本方針に定める「目指すコミュニティ像」の実現に向け、地域コミュニティが抱える課題

- | | |
|---|------------------|
| (1) 自治組織が抱える組織上・運営上の課題
①単位自治組織 ②広域コミュニティ組織 | (2) 地域(住民)が抱える課題 |
|---|------------------|

4. 上記3を踏まえ、地域コミュニティが抱える課題の解決に向けて必要と考えられる取り組みや、地域コミュニティの維持・活性化に向けた地域資源の活用方策等を整理する。

地域コミュニティが抱える課題の解決に向けて必要と考えられる取り組み

- (1) 地域コミュニティによる取り組み (2) 行政による取り組み (3) 地域コミュニティと行政の協働による取り組み

※(1)～(3)に共通

- ①自治組織が抱える組織上・運営上の課題に対する取り組み
- ②地域(住民)が抱える課題に対する取り組み

地域コミュニティの維持・活性化に向けた地域資源の活用

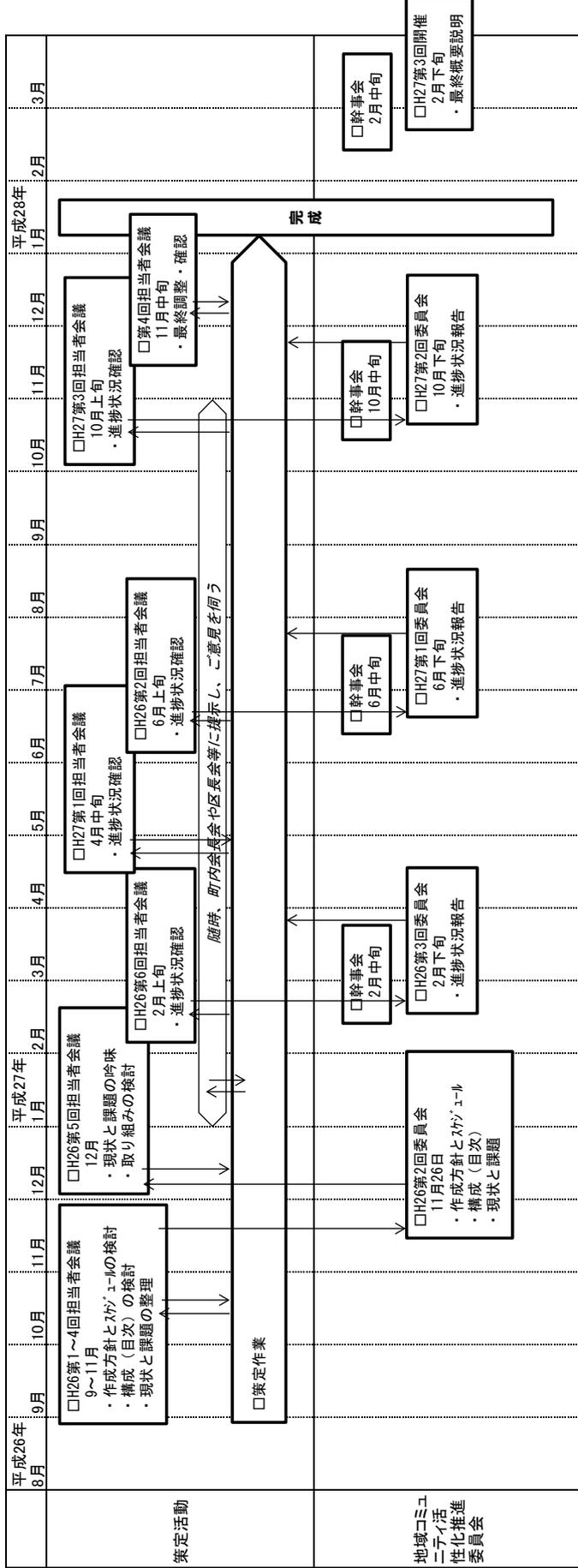
- (1) 地域コミュニティによる活用 (2) 行政による活用 (3) 地域コミュニティと行政の協働による活用

その他

5. 上記4を主体別・時系列に整理しながら、平成28～32年度(5年間)の取り組みを中心に記載する。

6. その他として、地域コミュニティの活性化に向けた庁舎の組織体制の構築や庁舎スペースの活用等について記載する。

地域コミュニティ推進計画（仮称）策定作業スケジュール（予定）



鶴岡市地域コミュニティ推進計画（仮称） 構成（目次）

- 1 地域コミュニティをめぐる現状
 - (1) 地域の世帯数、人口、人口構成の推移
 - (2) 単位自治組織の世帯数規模（平成 26 年度）
 - (3) 単位自治組織の加入率
 - (4) 住民自治組織の形態
 - (5) コミュニティ活動関係施設（平成 26 年度）
 - (6) 各地域のその他の特記事項

- 2 地域資源の明確化
 - (1) 主な固定資源
 - ①自然資源
 - ②歴史的資源
 - ③文化・社会資源
 - ④施設資源
 - ⑤人的資源
 - ⑥情報資源

 - (2) 主な流動資源
 - ①特産的資源
 - ②中間生産物

- 3 基本方針に定める「目指すコミュニティ像」の実現に向け、地域コミュニティが抱える課題
 - (1) 自治組織が抱える組織上・運営上の課題
 - ①単位自治組織
 - ②広域コミュニティ組織

 - (2) 地域（住民）が抱える課題

- 4 地域コミュニティが抱える課題の解決に向けて必要と考えられる取り組み
 - (1) 地域コミュニティによる取り組み
 - ①自治組織が抱える組織上・運営上の課題に対する取り組み
 - ②地域（住民）が抱える課題に対する取り組み

(2) 行政による取り組み

- ①自治組織が抱える組織上・運営上の課題に対する取り組み
- ②地域（住民）が抱える課題に対する取り組み

(3) 地域コミュニティと行政の協働による取り組み

- ①自治組織が抱える組織上・運営上の課題に対する取り組み
- ②地域（住民）が抱える課題に対する取り組み

5 地域コミュニティの維持・活性化に向けた地域資源の活用

(1) 地域コミュニティによる活用

(2) 行政による活用

(3) 地域コミュニティと行政の協働による活用

6 その他

1 地域コミュニティをめぐる現状

(1) 地域の世帯数、人口、人口構成の推移

鶴岡地域

	平成7年 国勢調査	12年 国勢調査	17年 国勢調査	22年 国勢調査	26年 住基台帳
世帯数	31,084	32,825	33,991	34,116	36,031
総人口	100,538	100,628	98,127	95,209	93,688
0～14歳	16,873	15,354	13,846	12,521	11,629
割合 (%)	16.8	15.3	14.1	13.2	12.4
15～64歳	64,396	62,797	59,635	56,370	54,659
割合 (%)	64.1	62.4	60.9	59.3	58.3
65歳～	19,269	22,408	24,512	26,089	27,400
割合 (%)	19.2	22.3	25.0	27.5	29.2
年齢不詳	-	69	134	229	-

藤島地域

	平成7年 国勢調査	12年 国勢調査	17年 国勢調査	22年 国勢調査	26年 住基台帳
世帯数	2,802	2,945	2,965	2,973	3,173
総人口	12,414	12,294	11,595	11,064	10,847
0～14歳	2,063	1,839	1,609	1,468	1,321
割合 (%)	16.6	15.0	13.9	13.3	12.2
15～64歳	7,569	7,325	6,754	6,299	6,117
割合 (%)	61.0	59.6	58.2	56.9	56.4
65歳～	2,782	3,130	3,232	3,297	3,409
割合 (%)	22.4	25.5	27.9	29.8	31.4
年齢不詳	-	-	-	-	-

羽黒地域

	平成7年 国勢調査	12年 国勢調査	17年 国勢調査	22年 国勢調査	26年 住基台帳
世帯数	2,181	2,209	2,273	2,330	2,561
総人口	9,988	9,616	9,323	9,059	8,814
0～14歳	1,758	1,490	1,264	1,119	1,049
割合 (%)	17.6	15.5	13.6	12.4	11.9
15～64歳	6,003	5,587	5,416	5,249	5,127
割合 (%)	60.1	58.1	58.1	58.0	58.2
65歳～	2,227	2,539	2,643	2,687	2,638
割合 (%)	22.3	26.4	28.3	29.7	29.9
年齢不詳	-	-	-	4	-

櫛引地域

	平成7年 国勢調査	12年 国勢調査	17年 国勢調査	22年 国勢調査	26年 住基台帳
世帯数	1,863	1,912	1,954	1,995	2,155
総人口	8,742	8,536	8,320	7,794	7,605
0～14歳	1,588	1,407	1,163	973	887
割合(%)	18.2	16.5	14.0	12.5	11.7
15～64歳	5,309	5,013	4,772	4,470	4,356
割合(%)	60.7	58.7	57.4	57.4	57.3
65歳～	1,845	2,116	2,385	2,351	2,362
割合(%)	21.1	24.8	28.7	30.2	31.1
年齢不詳	-	-	-	-	-

朝日地域

	平成7年 国勢調査	12年 国勢調査	17年 国勢調査	22年 国勢調査	26年 住基台帳
世帯数	1,417	1,367	1,316	1,259	1,362
総人口	6,309	5,864	5,378	4,798	4,615
0～14歳	1,098	874	669	509	444
割合(%)	17.4	14.9	12.4	10.6	9.6
15～64歳	3,640	3,308	3,026	2,681	2,533
割合(%)	57.7	56.4	56.3	55.9	54.9
65歳～	1,571	1,682	1,683	1,608	1,638
割合(%)	24.9	28.7	31.3	33.5	35.5
年齢不詳	-	-	-	-	-

温海地域

	平成7年 国勢調査	12年 国勢調査	17年 国勢調査	22年 国勢調査	26年 住基台帳
世帯数	3,312	3,122	2,992	2,838	2,902
総人口	11,518	10,608	9,641	8,698	8,262
0～14歳	1,752	1,478	1,147	937	773
割合(%)	15.2	13.9	11.9	10.8	9.4
15～64歳	6,813	5,980	5,319	4,571	4,247
割合(%)	59.2	56.4	55.2	52.6	51.4
65歳～	2,953	3,150	3,175	3,190	3,242
割合(%)	25.6	29.7	32.9	36.7	39.2
年齢不詳	-	-	-	-	-

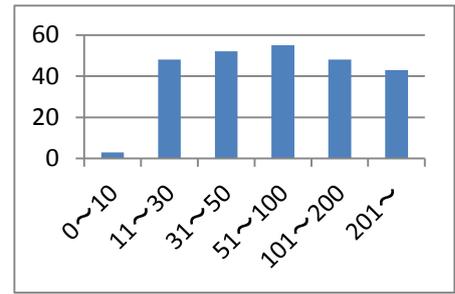
※国勢調査は10月1日現在、住民基本台帳は3月31日現在。

※年齢別人口割合は年齢不詳を除いて算出。

(2) 単位自治組織の世帯数規模 (平成 26 年度)

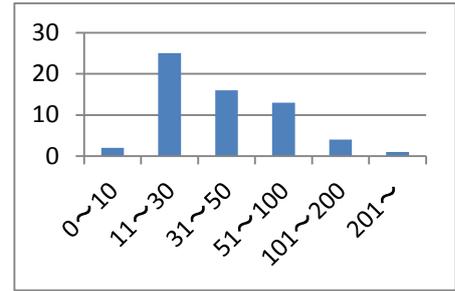
鶴岡地域

世帯数規模	組織数	割合	備考
0~10	3	1.2	
11~30	48	19.3	
31~50	52	20.9	
51~100	55	22.1	
101~200	48	19.3	
201~	43	17.3	
合計	249	100.0	



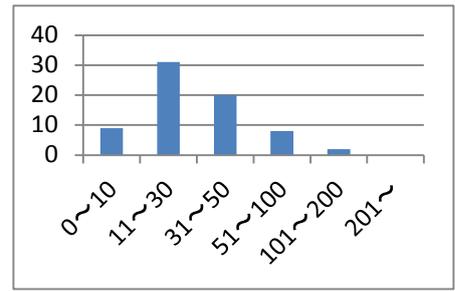
藤島地域

世帯数規模	組織数	割合	備考
0~10	2	3.3	
11~30	25	41.0	
31~50	16	26.2	
51~100	13	21.3	
101~200	4	6.6	
201~	1	1.6	
合計	61	100.0	



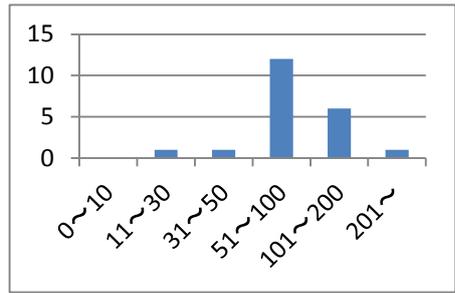
羽黒地域

世帯数規模	組織数	割合	備考
0~10	9	12.9	
11~30	31	44.3	
31~50	20	28.6	
51~100	8	11.4	
101~200	2	2.9	
201~	0	0.0	
合計	70	100.0	



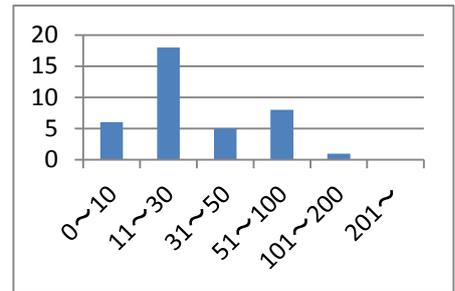
櫛引地域

世帯数規模	組織数	割合	備考
0~10	0	0.0	
11~30	1	4.8	
31~50	1	4.8	
51~100	12	57.1	
101~200	6	28.6	
201~	1	4.8	
合計	21	100.0	



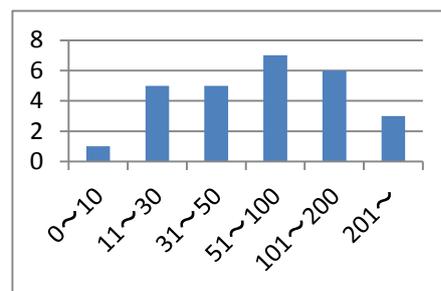
朝日地域

世帯数規模	組織数	割合	備考
0~10	6	15.8	
11~30	18	47.4	
31~50	5	13.2	
51~100	8	21.1	
101~200	1	2.6	
201~	0	0.0	
合計	38	100.0	



温海地域

世帯数規模	組織数	割合	備考
0～10	1	3.7	
11～30	5	18.5	
31～50	5	18.5	
51～100	7	25.9	
101～200	6	22.2	
201～	3	11.1	
合計	27	100.0	



(3) 単位自治組織の加入率

鶴岡地域

	平成20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
世帯数	34,919	35,010	35,153	35,328	35,568	35,990	36,031
加入世帯数	30,482	30,343	30,294	30,318	30,375	30,281	30,200
加入率 (%)	87.3	86.7	86.2	85.8	85.4	84.1	83.8

藤島地域

	平成20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
世帯数	3,117	3,123	3,130	3,144	3,145	3,162	3,173
加入世帯数	3,024	3,043	3,025	3,034	3,032	3,063	2,931
加入率 (%)	97.0	97.4	96.6	96.5	96.4	96.9	92.4

羽黒地域

	平成20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
世帯数	2,533	2,551	2,553	2,552	2,565	2,577	2,561
加入世帯数	2,354	2,386	2,394	2,394	2,407	2,403	2,310
加入率 (%)	92.9	93.5	93.8	93.8	93.8	93.2	90.2

櫛引地域

	平成20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
世帯数	2,061	2,070	2,105	2,111	2,115	2,141	2,155
加入世帯数	2,012	2,022	2,027	2,035	2,037	2,042	2,003
加入率 (%)	97.6	97.7	96.3	96.4	96.3	95.4	92.9

朝日地域

	平成20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
世帯数	1,371	1,366	1,375	1,369	1,381	1,369	1,362
加入世帯数	1,313	1,308	1,311	1,304	1,288	1,221	1,231
加入率 (%)	95.8	95.8	95.3	95.3	93.3	89.2	90.4

温海地域

	平成20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
世帯数	3,065	3,046	3,025	2,987	2,950	2,947	2,902
加入世帯数	2,985	2,966	2,946	2,909	2,870	2,868	2,728
加入率 (%)	97.4	97.4	97.4	97.4	97.3	97.3	94.0

※平成26年度より住民自治組織総合交付金制度がスタートし、これに合せ、世帯数の調査方法も変更となり、地域によっては加入率が大きく減少しているところもある。

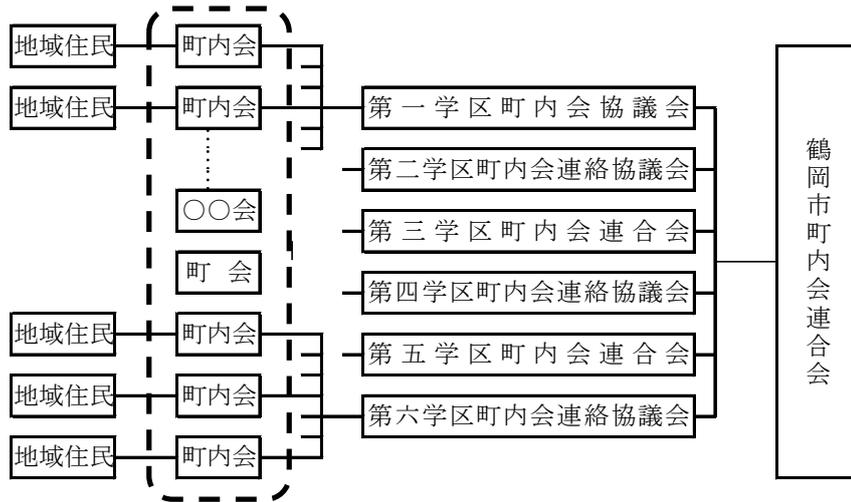
(4) 住民自治組織の形態

< 鶴岡地域【市街地（第一学区から第六学区）】 >

①町内会等

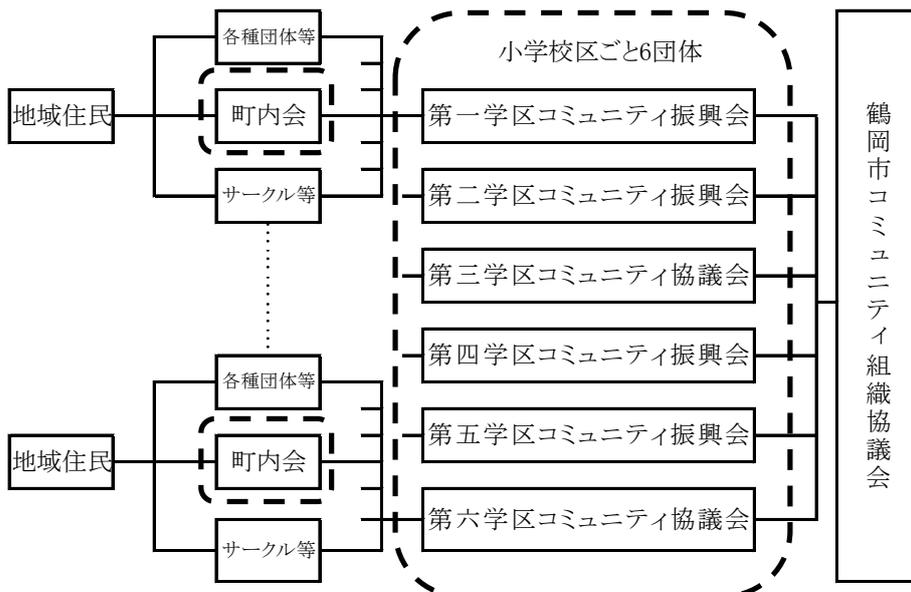
市街地には、102の単位自治組織（町内会等）があり、住民相互の連絡協調と交流を図りながら、明るく住みよい地域づくりに向けた各種事業が行われている。町内会等の代表者はおおむね町内会長と称する。

また、市街地には、おおむね小学校区単位の6つの学区ごとに、学区内の町内会等で構成する町内会協議会等が、さらに、全町内会等で構成する鶴岡市町内会連合会が組織され、町内会等相互の連絡調整と調和を図り、住民の意思を市政に反映させるとともに、住民自治の発展と住民福祉の向上に寄与することを目的として運営されている。



②コミュニティ振興会等

市街地には、おおむね小学校区単位の6つの学区ごとに、学区内の町内会等や関係団体等で構成する広域コミュニティ組織（コミュニティ振興会等）が、さらに全コミュニティ振興会等で構成される鶴岡市コミュニティ組織協議会があり、市民相互の連帯感の醸成と自治意識の高揚を図り健康で住みよい豊かな地域づくりを進めることを目的として、コミュニティ（防災）センターを拠点に、コミュニティ活動が展開されている。なお、コミュニティ振興会等は、同センターの指定管理者として管理運営にあっている。



注)組織図の [- - - -] は、住民自治組織を示す。

< 鶴岡地域【郊外地（斎地区から西郷地区）】 >

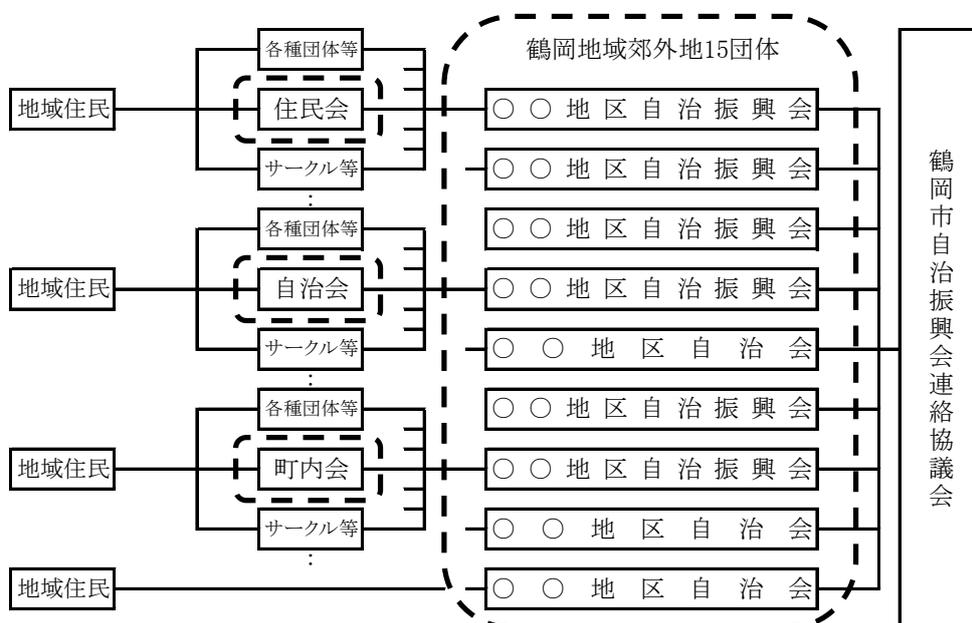
①住民会等

郊外地には、147の単位自治組織（住民会等）があり、住民相互の連絡協調と交流を図りながら、明るく住みよい地域づくりに向けた各種事業が行われている。住民会等の代表者は住民会長・自治会長・町内会長と称する。

郊外地の15の地区には、地区内の住民会長等で構成する住民会長会等が組織されているところもあり、その形態は様々だが、住民会長等相互の連絡調整と住民会等の調和を図り、住民自治の発展と住民福祉の向上に寄与することを目的に運営されている。

②自治振興会等

郊外地の15の地区には、地区内の住民会等や関係団体等で構成する広域コミュニティ組織（自治振興会等）が、さらに全自治振興会等で構成される鶴岡市自治振興会連絡協議会があり、住民相互の連帯感の醸成と自治意識の高揚を図り健康で住みよい豊かな地域づくりを進めることを目的として、コミュニティ（防災）センターを拠点に、コミュニティ活動が展開されている。なお、自治振興会等は、同センターの指定管理者として管理運営にあっている。



(行政からの主な依頼事項)

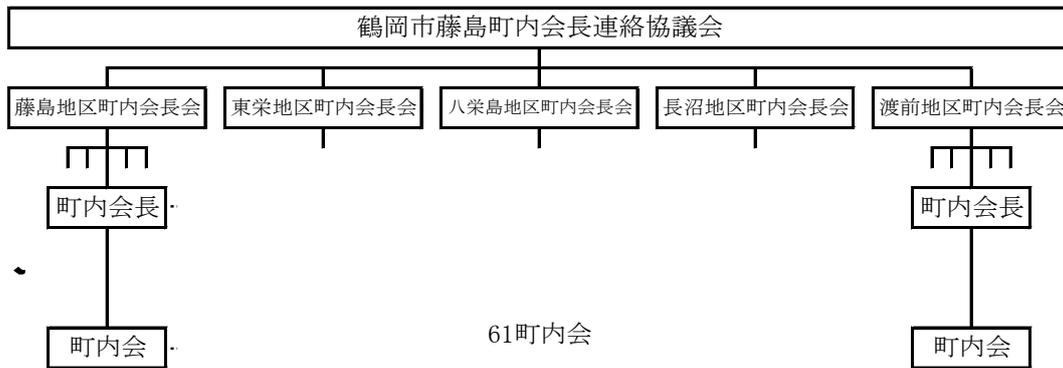
- (1) 広報物関係(市広報、市議会報、県広報等)及び回覧物の配布
- (2) 各種募金・日赤社費等の取りまとめ及び集金
- (3) 公共機関が発行するチラシ等の配布

< 藤島地域 >

①町内会

藤島地域には、61の単位自治組織（町内会）があり、住民相互の連絡協調と交流を図りながら、明るく住みよい地域づくりに向けた各種事業が行われている。町内会の代表者は町内会長と称する。

地域内には、5つの地区ごとに、地区内の町内会長からなる町内会長会が、さらに町内会長全員からなる鶴岡市藤島町内会長連絡協議会が組織され、町内会長相互の連絡協調と各町内会の調和を図り、住民の意思を市政に反映させるとともに、住民自治の発展と住民福祉の向上に寄与することを目的として運営されている。



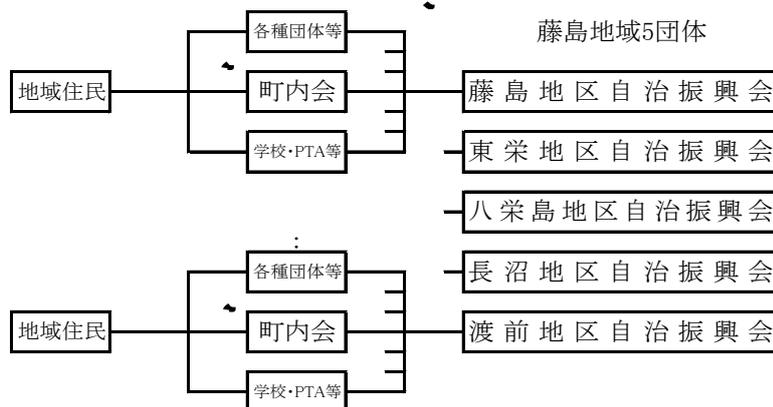
(行政からの主な依頼事項)

- (1) 広報物関係(市広報、市議会報、県広報等)及び回覧物の配布
- (2) 各種募金・日赤社費等の取りまとめ及び集金
- (3) 公共機関が発行するチラシ等の配布
- (4) 各種委員・推進員・連絡員等の推薦
- (5) 関連団体広報等の配布

②自治振興会

藤島地域では、平成25年度に地区公民館単位の5つの地区に、広域的なコミュニティ組織である自治振興会が設立された。自治振興会は、住民相互の連帯感の醸成と自治意識の高揚を図り健康で住みよい豊かな地域づくりを進めることを方針として、地区内の町内会や関係団体等で構成されている。

平成26年度に地区公民館から移行した地域活動センターを拠点に、地域コミュニティ活動を展開するとともに、同センターの指定管理者として管理運営にあっている。

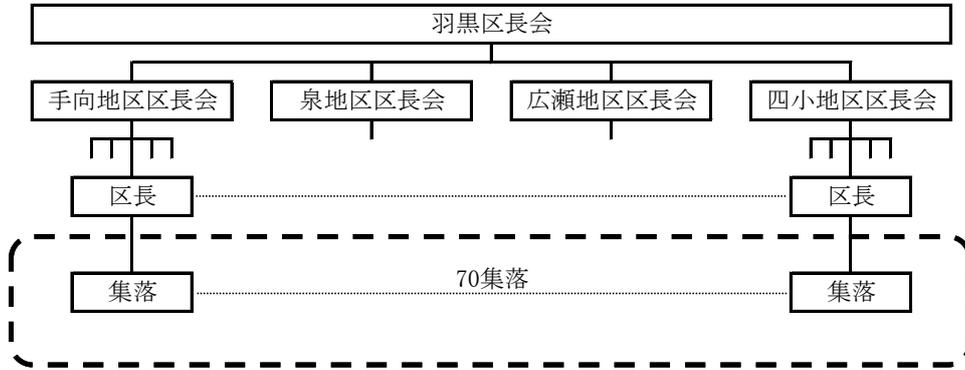


<羽黒地域>

①区長会

羽黒地域には、70の単位自治組織（集落）があり、住民相互の連絡協調と交流を図りながら、明るく住みよい地域づくりに向けた各種事業が行われている。集落の代表者は区長と称する。

地域内には、4つの地区ごとに、地区内の区長からなる区長会が、さらに区長全員からなる羽黒区長会が組織され、区長相互の連絡協調と各集落の調和を図り、住民の意思を市政に反映させるとともに、住民自治の発展と住民福祉の向上に寄与することを目的に運営されている。



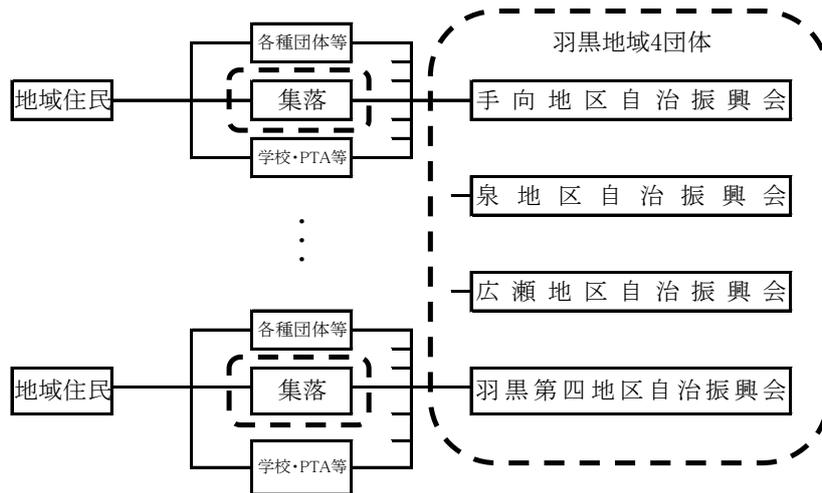
(行政からの主な依頼事項)

- (1)広報物関係(市広報、市議会報、県広報等)及び回覧物の配布
- (2)各種募金・日赤社費等の取りまとめ及び集金
- (3)公共機関が発行するチラシ等の配布
- (4)各集落内庶事・要望の取りまとめ
- (5)市長が必要と認めたこと

②自治振興会

羽黒地域では、平成26年度に地区公民館単位の4つの地区に、広域的なコミュニティ組織である自治振興会が設立された。自治振興会は、住民相互の連帯感の醸成と自治意識の高揚を図り健康で住みよい豊かな地域づくりを進めることを方針として、地区内の集落や関係団体等で構成されている。

平成27年度に地区公民館から移行する地域活動センターを拠点に、地域コミュニティ活動を展開するとともに、同センターの指定管理者として管理運営にあたる予定としている。

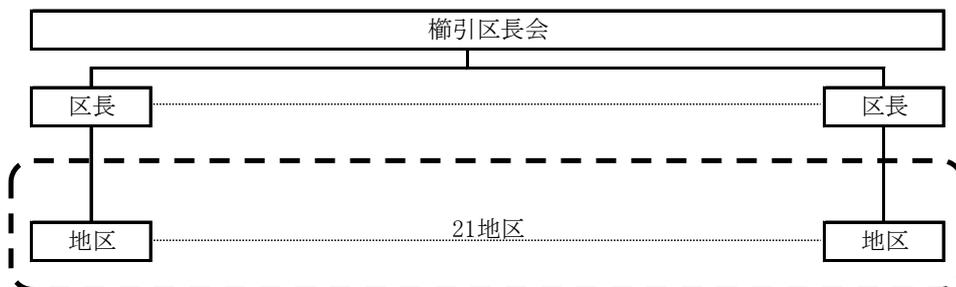


< 榑引地域 >

榑引地域には、21の単位自治組織（地区）があり、住民相互の連絡協調と交流を図りながら、明るく住みよい地域づくりに向けた各種事業が行われている。地区の代表者は区長と称する。

また、地区を単位とする自治公民館が設置され、社会教育、社会体育活動が活発に行われ、自治組織と一体となった取り組みが行われている。

地域内には、区長全員からなる榑引区長会が組織され、区長相互の連絡協調と各自治会の調和を図り、住民の意思を市政に反映させるとともに、住民自治の発展と住民福祉の向上に寄与することを目的に運営されている。



(行政からの主な依頼事項)

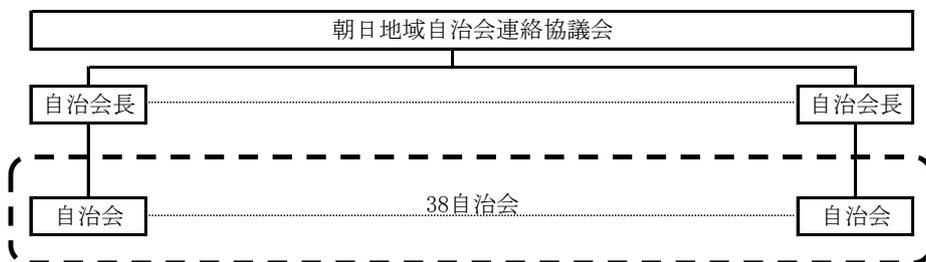
- (1) 広報物関係(市広報、市議会報、県広報等)及び回覧物の配布
- (2) 各種集金・日赤社費等の取りまとめ及び集金
- (3) 公共機関が発行するチラシ等の配布
- (4) 社会福祉協議会費の集金、取次ぎ及び広報等の配布
- (5) 行政の事務事業執行の補佐

<朝日地域>

①自治会

朝日地域には、38の単位自治組織（自治会）があり、住民相互の連絡協調と交流を図りながら、明るく住みよい地域づくりに向けた各種事業が行われている。自治会の代表者は自治会長と称する。

地域内には、自治会長全員からなる朝日地域自治会連絡協議会が組織され、自治会長相互の連絡協調と各自治会の調和を図り、住民の意思を市政に反映させるとともに、住民自治の発展と住民福祉の向上に寄与することを目的に運営されている。



(行政からの主な依頼事項)

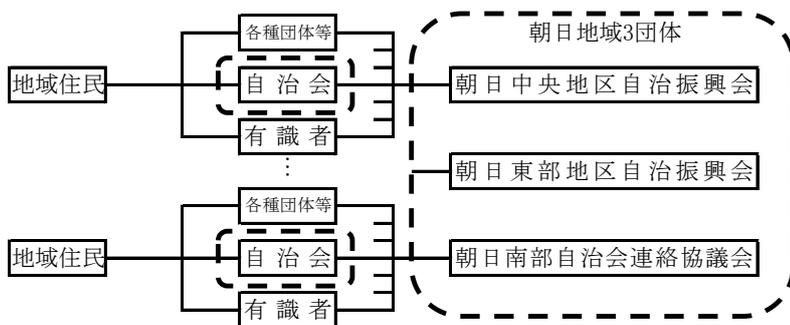
- (1) 広報物関係(市広報、市議会報、県広報等)及び回覧物の配布
- (2) 案内文書(会議など)の配布
- (3) 各種調査票のとりまとめ
- (4) 募金のとりまとめ(日本赤十字社)
- (5) 各種委員等の推薦
- (6) その他

(関係団体からの主な依頼事項) 会報・情報資料等の配布(社会福祉協議会、シルバー人材センター、あさひ村観光協会、産直あさひ・グー、出羽庄内森林組合、朝日ぶなの木会、出羽商工会、月山あさひ博物村、朝日中学校同窓会)

②自治振興会

朝日地域では、平成26年度に地区公民館単位の3つの地区に、広域的なコミュニティ組織である自治振興会が設立された。自治振興会は、住民相互の連帯感の醸成と自治意識の高揚を図り健康で住みよい豊かな地域づくりを進めることを方針として、地区内の集落や関係団体等で構成されている。

平成27年度に地区公民館から移行するコミュニティセンターを拠点に、地域コミュニティ活動を展開するとともに、同センターの指定管理者として管理運営にあたる予定としている。

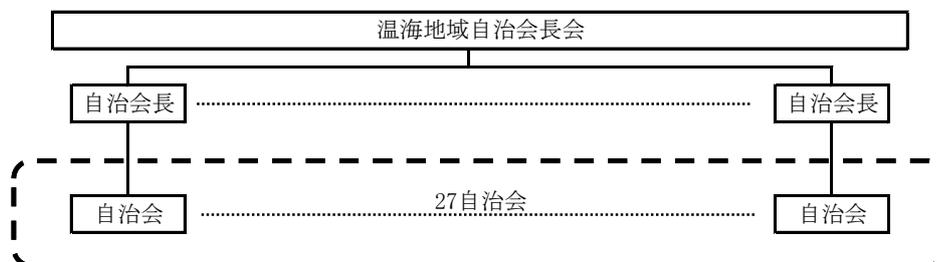


< 温海地域 >

①自治会

温海地域には、27の単位自治組織（自治会）があり、自治会活動と公民館活動を一体的に行う自治公民館方式をとっており、住民相互の連絡協調と交流を図りながら、明るく住みよい地域づくりに向けた各種事業のほか、生涯学習活動や特色ある事業を展開した地区自治会活動も取り組まれている。自治会の代表者は自治会長と称する。

地域内には、自治会長全員からなる温海地域自治会長会が組織され、自治会長相互の連絡協調と各自治会の調和を図り、住民の意思を市政に反映させるとともに、住民自治の発展と住民福祉の向上に寄与することを目的に運営されている。

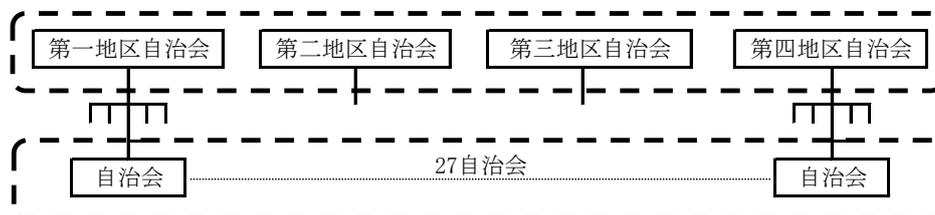


(行政からの主な依頼事項)

- (1) 広報物関係(市広報、市議会報、県広報等)及び回覧物の配布
- (2) 各種募金・日赤社費等の取りまとめ及び集金
- (3) 公共機関が発行する公報物の配布
- (4) 防犯灯、林道原材料等要望取りまとめ
- (5) 庁舎からの有線放送依頼
- (6) その他市長が依頼する事務

②地区自治会

温海地域では、平成26年度に4つの地区ごとに、広域的なコミュニティ組織である地区自治会が設立された。地区自治会は、住民相互の連帯感の醸成と自治意識の高揚を図り健康で住みよい豊かな地域づくりを進める方針として、地区内の自治会で構成されている。



(5) コミュニティ活動関係施設数一覧 (平成 26 年度)

	鶴岡地域	藤島地域	羽黒地域	櫛引地域	朝日地域	温海地域	合計
コミュニティ(防災)センター、 地域活動センター等	21	5	-	-	-	-	26
中央公民館・地区公民館	1	-	5	1	3	1	11
自治公民館	160	58	62	21	37	27	365
保育園	27	2	3	4	1	5	42
幼稚園	8	1	-	-	-	-	9
児童館等	5	1	-	-	-	-	6
小学校	19	4	4	3	2	5	37
中学校	6	1	1	1	1	1	11
高等学校	6	1	1	1	-	-	9
高等専門学校	1	-	-	-	-	-	1
大学・大学院	2	-	-	-	-	-	2
市役所庁舎	1	1	1	1	1	1	6
総合福祉センター(にこふる)	1	-	-	-	-	-	1
鶴岡市社会福祉協議会各地 区福祉センター	1	1	1	1	1	1	6
警察署・交番・駐在所	12	3	2	2	1	3	23
消防署・分署	4	1	1	1	1	1	9
体育館	2	1	2	1	1	-	7

(6) 各地域のその他の特記事項

<鶴岡地域>

i コミュニティの成り立ち

明治 22 年の郡区町村編成法施行において、はじめて自治体としての鶴岡町が誕生した。その後、大正 7 年に稲生村、大正 9 年に大宝寺村を合併し、大正 13 年に鶴岡市となった。さらに、昭和 30 年 4 月に、隣接する斎村、黄金村、湯田川村、大泉村、京田村及び栄村の 6 村が、7 月に田川村、上郷村、豊浦村及び加茂町の 1 町 3 村が合併し、昭和 38 年 8 年に大山町が合併して旧鶴岡市を形成してきた。

町内会、自治会及び住民会等の住民自治組織については、江戸時代に一定の住居地区を前提とする地縁を重視した生活共同体から派生した地域集団が、昭和 15 年の部落会町内会等整備要領に基づき整備され、戦後再発足したものと、新しく住宅地となり、自然派生的に組織化が進んだものがあるが、各組織の世帯数に大きな差異がある。

昭和 51 年からは、社会情勢の変化をふまえて、住民の自主的なコミュニティ活動の拠点づくりを進め、郊外地の地区公民館をコミュニティセンターに移行するとともに、市街地にも学区単位にコミュニティセンターを設置し、平成元年を以て 21 小学校区全てにコミュニティ（防災）センターを設置して、学区・地区コミュニティ組織が管理運営を行ってきた。

ii 自然特性・立地

鶴岡地域は、米どころ庄内平野の南部に位置し、地域総面積は 233.91 km²、平野が約 6 割を占める。古くから庄内地方の政治、経済、文化の中心として発展してきた。

市街地は、城下町として培われた長い歴史と文化が脈々と受け継がれ、街並みも、鶴ヶ岡城址である鶴岡公園周辺には藩校致道館をはじめとした歴史的建造物が集中している。また、市街地を流れる内川は、古くから市民の川として親しまれている。なお、内川のほかに、赤川や青龍寺川等の河川が流れ、農業用水路、排水路等も横断しており、水利は豊富だが、集中豪雨の際等の洪水が心配される。

郊外地は、良質な庄内米が栽培されており、海や山などの豊かな自然環境にも恵まれ、海産物や山菜が豊富である。一方で、海岸沿いでは津波や高潮が、山間地では土砂災害等が心配される。

iii その他

人口の 64%、世帯の 69%が市街地に集中しており、市街地と郊外地に 2 極化している。

<藤島地域>

i コミュニティの成り立ち

明治 22 年に旧藤島・東栄・八栄島・長沼・渡前の各村が発足、その後大正 11 年に町制を施行した藤島町と東栄・八栄島・長沼の 3 村が昭和 29 年に合併、翌昭和 30 年に渡前村が編入合併し、旧藤島町を形成してきた。

その経過から、これまで旧藤島・東栄・八栄島・長沼・渡前村単位に地区公民館を設置し、生涯学習活動を中心とした地域活動に取り組んでいたが、平成 26 年 4 月より各地区とも新たに地域活動センターに移行し、総合的な地域活動の拠点施設としてのコミュニティ活動を担うこととなった。

ii 自然特性・立地

藤島地域は、庄内地方のほぼ中央に位置していることから明治 11 年に東田川郡役所が置かれるなど農村地域の中心として発展してきた。

面積は 63. 22k m²で、その約 85%が平坦な地形、約 60%が農用地として利用されるなど、庄内平野を代表する水稻地帯を形成している。

iii その他

藤島地域の中心部にある藤島地区は地域の世帯の約半数を占めているが、県水田農業試験場をはじめ県庄内農業技術普及課、県立庄内農業高校、土地改良区などの農業施設が集約され、市の公共施設や学校、商店などもあわせて市街地を形成している。その関係から各地区とも世帯数は横ばい、人口は減少傾向となっている中で、藤島地区は世帯数が漸増している。

<羽黒地域>

i コミュニティの成り立ち

明治 22 年町村制が施行され、手向・泉・広瀬村が誕生した。昭和 30 年 2 月 1 日、町村合併促進法のもとに 3 ケ村が合併し、羽黒町が誕生した。平成 17 年 10 月 1 日に鶴岡市と合併し現在に至る。

主要地方道鶴岡羽黒線沿いに集落を形成しているほか、中山間地や平地に小規模な集落が点在している。手向地区は古くから出羽三山神社の門前集落であり宿坊が多く、家屋が連担している。広瀬地区には、明治 5 年に庄内藩の武士達が荒野を開墾開拓し、その後養蚕業を興した松ヶ岡開墾場がある。

多くは昔からの集落であるが、住宅開発により新しく設立した自治組織もある。

ii 自然特性

総面積は 109. 61 km²、月山・羽黒山の山麓を含み赤川周辺までを範囲としている。山岳地、中山間地、平野からなり、半分以上が山麓、中山間地に属している。農業・畜産業が盛んであり、山岳地、中山間地においては積雪が多い。

iii その他

明治 22 年に合併した手向・泉・広瀬地区単位で活動する団体、4 つの小校区単位で活動する団体、羽黒地域全体で活動する団体が混在している。

近年住宅開発をした地域や別荘地など、新規居住者が増える自治組織も存在しているが、積雪が多い中山間地では、特に人口減少、少子化が進んでいる。

<櫛引地域>

i コミュニティの成り立ち

昭和29年12月、山添村と黒川村が合併し櫛引村となった。昭和31年1月、鶴岡市大字勝福寺の一部（三千刈地区）を編入し、昭和41年には町制を施行し櫛引町となった。

物理的に赤川を挟んでの合併だったため、新村の融和促進を図る観点から旧村単位の組織を設けず全村的な組織づくりをしてきた。櫛引村誕生当時の集落数は44であったが、自治会運営の効率化や行政による統合の誘導により集落が統合し、昭和51年には22集落となった。平成21年には、集落の戸数減少による自主的な統合によって、集落数は21となり現在に至っている。

当時、櫛引村は合併後、1村に1館の中学校区をエリアとする公立公民館を置く一方、住民に最も身近である集落ごとに自治公民館の設置を奨励・促進した。以降、自治公民館を拠点に集落単位で社会教育、社会体育活動が行われてきた。

ii 自然特性・立地

櫛引地域の総面積は80.18 k²で、そのうち山林・原野が約39%、田畑が約33%、宅地が約3%となっている（平成18年1月1日現在）。中山間地域もあるが、いずれの集落も櫛引庁舎から車で10分程度というコンパクトな地勢となっている。

iii その他

自治組織の数も21集落とコンパクトであり、1集落あたりの世帯数が比較的多い。小学校区単位の地区公民館がなく、地域コミュニティを構成する各種団体の活動が中学校区単位で行われている。

<朝日地域>

i コミュニティの成り立ち

明治22年の町村制施行により18あった村が東村、本郷村、大泉村の3村に、また昭和29年8月、3村が朝日村に合併された。

朝日地域のコミュニティ活動の範囲として、平成7年に現在の3地区公民館に再編される以前の8地区公民館の区域が現在も残っている。

8地区公民館に至る歴史としては、まず社会教育法制定により昭和27年、旧東村に2館（大網、東岩本）、旧大泉村に2館（大鳥、大泉）が役場・学校との併設で設置された。そして朝日村合併後の昭和30年、役場新庁舎建設に伴い旧本郷村役場を転用して1館（本郷）が設置。昭和40年、当時の8小学校区の中で設置されていなかった3地区（大針、熊出、名川）についても公民館が設置された。

ii 自然特性・立地

庄内地方最南端に位置し、569.17 km²の市内最大の地域面積をもつが、その94%が山岳・林野地帯という山間地で、河川沿いのわずか3%の平地を農地や宅地としている。また、積雪1.5mから3mにも達する豪雪地帯であり、地理条件として

はあまり恵まれていない。

iii その他

少子高齢化が進んでおり、自治会単位の世帯数も少ない。よって、各組織の予算規模も小さいものとなっている。

< 温海地域 >

i コミュニティの成り立ち

明治 22 年の町村制の施行により、それまでの 19 か村が、温海村、念珠関村、福栄村の 3 か村に合併し、その後、明治 25 年に温海村から山戸村が分離独立した。昭和 13 年には旧温海村が温海町となり、昭和 29 年にそれら 1 町 3 か村が合併し温海町となった。

昭和 33 年に集落づくりの温海町公民館を中心とした 4 つの地区公民館のもとに 31 集落（部落）に自治（部落）公民館が設置整備され現在の公民館体系の基礎が構築された。

その後、自治会が行う集落活動と自治公民館が行う学習活動等が一体となった「自治公民館方式」での活動となった。

平成 17 年の市町村合併により、鶴岡市中央公民館を中心に、温海ふれあいセンター（温海公民館）が鶴岡市温海地区公民館とし、そのもとに第 1～4 地区公民館と位置付けて事業展開を行っていた。

平成 26 年度には、4 つの地区ごとに、防災・福祉等の活動にも取り組むことを想定した広域コミュニティ組織である地区自治会が設立された。その活動拠点施設として、各地区の自治公民館を活用している。

ii 自然特性・立地

山形県の日本海側に面した西南端に位置し、長さ約 16 km を一辺としたほぼ正方形をなしており、総面積は 255.40 km² で、その約 89% は山林となっている。海岸線は庄内海浜県立自然公園に指定され、変化に富んだ海岸線を形成している。噴火で噴出した玄武岩が海中までのび、暮坪の立岩、鼠ヶ関の弁天島などの景勝をつくり、入江の多くは漁港として利用されている。

川は、摩耶山系に源を發し、四本の川がほぼ平行して流れ、日本海に注いでいる。その河川沿いには 27 の集落が点在しており、温海川の上流には温海岳の山懐に抱かれた、開湯一千年の温海温泉がある。

iii その他

海、山、川、温泉等の天然資源があり、職業が多種多様であるが、職場は鶴岡地域が多く昼間人口は非常に少ない。また高齢化率・高齢者世帯比率等は高く、人口減少率も高い地域である。

<鶴岡地域>

2 地域資源の明確化

(1) 主な固定資源

① 自然資源

金峯山
高館山自然休養林
温泉（湯野浜、湯田川、由良、火
灯崎、波戸崎）
鶴岡公園桜

上池・下池
海水浴場（由良、湯野浜、加茂、三瀬、
小波渡、堅苔沢）
白山島
まぼろしの滝

② 歴史的資源

鶴岡公園[城址]
致道博物館[旧西田川郡役所、民
族文化財収蔵庫、田麦俣多層民
家]
荘内神社宝物殿
大宝館
庄内藩校致道館
酒井家庭園
旧風間家住宅丙申堂
風間家旧別邸無量光苑釈迦堂
三井家蔵座敷
菅家庭園
鶴岡カトリック教会天主堂

南岳寺[即身仏]
湯田川温泉梅林公園
由豆佐売神社
気比神社
善宝寺
大山公園
「雪の降るまちを」メロディー発想の
地
学校給食発祥の地
高山樗牛
田澤稲舟
藤沢周平
丸谷才一

③ 文化・社会資源

鶴岡冬まつり
日本海寒鱈祭
由良寒鱈まつり
大山新酒・酒蔵まつり
鶴岡雛物語
湯田川梅まつり
鶴岡桜まつり
大山公園桜まつり
鶴岡天神祭
岩牡蠣祭

天神祭
荘内大祭
大山犬まつり
金峯山雪灯籠祭
だるま市
加茂港大漁フェスティバル
山王ナイトバザール
赤川花火大会

④ 施設資源

藤沢周平記念館
鶴岡タウンキャンパス
鶴岡アートフォーラム

鶴岡市自然学習交流館ほとりあ
県民の海プールスパール
出羽庄内国際村

金峯山博物館
加茂水族館
由良海洋釣り堀
キャンプ場(由良海岸、三瀬海岸、
三瀬八森山、小波渡海岸)

小真木原運動場
ゴルフ場(湯野浜カントリークラブ)
出羽ノ雪酒造資料館
庄内空港

⑤人的資源

山形大学農学部
鶴岡工業高等専門学校
慶應義塾大学先端生命科学研究
所
東北公益文科大学大学院
NPO 法人公益のふるさと創り鶴岡

NPO 法人つるおかランド・バンク
NPO 法人三井蔵部
NPO 法人鶴岡城下町トラスト
NPO 法人ぼらんたす
首都圏鶴岡会

⑥情報資源

(2) 主な流動資源

①特産的資源

絵ろうそく
いづめこ人形
御殿まり
駄菓子
庄内竿
竹塗漆器
漬物(民田なす、赤かぶ)
絹織物
地酒
クリスタルガラス
田川そば

だだちゃ豆
もうそう汁
南禅寺豆腐
庄内砂丘メロン
どんがら汁
麦切り
庄内米
芋煮
庄内柿
岩牡蠣

②中間生産物

<藤島地域>

2 地域資源の明確化

(1) 主な固定資源

①自然資源

添川根子杉
十文字開発記念樹
藤九郎清水

添川大森山のあずまや
藤島歴史公園
各所にある藤棚

②歴史的資源

独木船（まるきぶね）
硬玉類
平形館跡
藤島城址

東田川文化記念館（旧東田川郡役所・
郡会議事堂・旧東田川電気事業組合倉
庫）

③文化・社会資源

獅子踊り（渡前獅子踊り、大谷獅
子舞、東堀越獅子踊り、両所神社
御獅子舞、八色木獅子踊り、豊栄
獅子踊り）
神楽（長沼八幡神社神楽、六所神
社神楽、古郡神楽）

ふじの花まつり
ふじしま夏まつり（鶴岡伝統芸能祭、
ふじしま焼肉フェスティバル）
ふじしま秋まつり

④施設資源

筍沢温泉慈生館
湯の沢温泉地蔵の湯
長沼温泉ぽっぽの湯

産直楽々（らら）
藤島ふれあいセンター（直売）
県水田農業試験場（つや姫誕生の地）

⑤人的資源

東京藤島会
名寄交流友の会

NPO 法人明日のたね

⑥情報資源

(2) 主な流動資源

①特産的資源

有機・特別栽培農産物
大吟醸藤島
すいおう
庄内柿
トマト

マコモタケ
軟白ねぎ
庄内牛
藁工芸品

②中間生産物

エコ有機センターで生産される堆肥

<羽黒地域>

2 地域資源の明確化

(1) 主な固定資源

①自然資源

月山
羽黒山
杉林
水田
畑
月山牧場

柿
熊
牛
水芭蕉
温泉

②歴史的資源

玉川縄文遺跡
硬玉製勾玉類（玉川遺跡出土）
玉川寺庭園
羽黒山のスギ並木
羽黒山の爺スギ
月山
羽黒山南谷の蘚苔と杉並木
羽黒山五重塔

羽黒山正善院
羽黒山三神合祭殿及び鐘楼
銅鏡（羽黒山御手洗池出土）
松ヶ岡開墾場（本陣、蚕室等）
蜂子皇子
天宥法印
戸川安章
今井繁三郎

③文化・社会資源

高寺八講
法螺貝
宿坊
斎館
精進料理
花祭り
八朔祭
松例祭
出羽三山羽黒太鼓
奥の細道羽黒山全国俳句大会

新島村との交流事業（墓参、物産交流、
駅伝参加、サマー交流訪問、スキー体
験来訪）
松ヶ岡クラフトフェア
松ヶ岡雪灯籠祭り
松ヶ岡音楽祭
庄内ラブジャム
奉納相撲大会
羽黒山石段マラソン
羽黒地区駅伝大会

④施設資源

出羽三山神社
羽黒山石段
映画ロケオープンセット
いでは文化記念館
玉川寺
歴史博物館
松ヶ岡本陣

松ヶ岡開墾記念館
庄内農具館
庄内映画村資料館
おカイコさまの蔵
新徴屋敷
「庄内の米作り用具」収蔵庫
松岡窯陶芸教室陶の蔵

くらふと松ヶ岡「こうでらいね」
ギャラリーまつ
シルクショップ荘内藩
直売所ひょうたん
やまぶし温泉「ゆぽか」
月山ビジターセンター
月山レストハウス
宿坊

休暇村羽黒
キャンプ場
蝦夷館公園
創造の森
蝦夷館公園
農業用ため池
羽黒山スキー場

⑤人的資源

出羽三山神社宮司、山伏
氏子会
松例祭保存会
NPO 法人蜂鼓山社中
まちづくり塾羽黒グループ
精進料理プロジェクト
出羽三山魅力発信協議会
松ヶ岡地域振興会議

荒川地域づくり文化振興会議
東北振興研修所
いでは観光ガイドの会
月山観光ガイドの会
走友会
羽黒スポーツクラブ
東京羽黒会
宮城羽黒会

⑥情報資源

山伏修行体験塾
お札（出羽三山神社）

松岡窯陶芸教室

(2) 主な流動資源

①特産的資源

庄内柿
アスパラ
ブルーベリー
米
月山筍
月山高原メロン
赤カブ

長芋
桃
ラフランス
サクランボ
枝豆（主に加工用）
陶芸
酒造

②中間生産物

<櫛引地域>

2 地域資源の明確化

(1) 主な固定資源

①自然資源

勝地の大杉
桜並木（馬渡川）
鮎（赤川）
イバラトミヨ（板井川）

ホタルの里（宝谷）
棚田（たらのき代）
酸性白土（松根）

②歴史的資源

丸岡城跡及び加藤清正墓碑
上ノ山城主、里見越後守主従の墓地
赤川渡舟跡（弘法の渡し）
首なし地藏堂と修理塚

六十里越街道
柏戸
斎藤秀一（言語研究家）
遠藤虚籟（綴錦織）

③文化・社会資源

黒川能（王祇祭、水焰の能、蠟燭能、能装束、能面）
天狗舞・獅子舞
御神子舞
奴振り（上山添皇大神社）
流鏑馬神事（下山添八幡神社）
丸岡桐箱踊り
宝谷八木節
昔話

「空にかける階段」作品群
さくらんぼ祭り
清正公祭
くしびき夏祭り
ふるさとむら宝谷新そば祭り
櫛引地域スポーツ大会（サッカー、バスケ、バレーボール、卓球）
こしやってマルシェ

④施設資源

鶴岡市ケーブルテレビジョン
たらのきだいスキー場
くしびき温泉ゆ〜Town
柏戸記念館
産直めぐり
観光果樹村（くしびきPA）・果樹園（さくらんぼ、ぶどう、りんご）

宝谷そば・ふるさとむら宝谷
櫛引総合運動公園・櫛引スポーツセンター
黒川能の里・王祇会館
工業団地（庄内南、櫛引東、櫛引西）
地場イタリアンレストラン
農家民宿・農家レストラン

⑤人的資源

櫛引会（首都圏、関西、宮城）
横浜市立青木小学校（修学旅行交流）
鎌倉女子大学（農業体験受入）

神楽坂毘沙門天（農産物訪問販売・東京都）
櫛引花と緑の会（サルビア植栽活動）
櫛引やすらぎ公園管理組合（馬渡の桜）

の管理)
公益財団法人黒川能保存会
上海清水池イバラトミヨを守る
会 (板井川)
荘内加藤清正公忠廣公遺蹟顕彰
会 (丸岡)
櫛引観光ガイドの会

黒川能の里観光ガイドの会
黒川能の里の会 (民宿)
黒川・蠟燭能実行委員会
松根塾
講中 (伊勢講、地蔵講等)
富樫実

⑥情報資源

(2) 主な流動資源

①特産的資源

果樹 (ぶどう、さくらんぼ、りん
ご、なし、柿)
そば

宝谷かぶ
酒造

②中間生産物

ペレット

<朝日地域>

2 地域資源の明確化

(1) 主な固定資源

①自然資源

ブナ原生林	水力
カタクリ群生地	豪雪（雪室利用）
梵字川溪谷	湧水
溪流	朝日連峰（以東岳、大鳥池、高山植物）
里山	月山
棚田	湯殿山
カモシカ	摩耶山
野鳥（カワセミ科、クマタカ、白鳥）	湯ノ沢岳
ホタル	湖沼（中台池、池の平池）
溪流魚	秋の紅葉
	滝（日本の滝百選 七ツ滝 外）

②歴史的資源

越中山遺跡	即身仏（注連寺、大日坊、本明寺）
砂川A遺跡	旧遠藤家住宅（多層民家）
大泉鉦山跡	本多猪四朗
湯殿山神社	森敦
六十里越街道	

③文化・社会資源

山岳信仰	湯殿山開山祭
マタギ	湯ノ沢岳山開き
鷹匠	大鳥川フェスタ
獅子舞	月山ワインまつり
神楽	あさひ産業文化まつり
祥雲御山太鼓	庄内あさひ新そばまつり
タキタロウ伝説、	スキー
月山あさひ博物村イベント（キジ汁祭り、月山筍汁祭り、博物村夏祭り、大梵字新そば祭り）	溪流釣り
タキタロウまつり（大鳥池山開き）	キャンプ
	カヌー
	登山

④施設資源

ダム	湯殿山スキー場
道の駅（月山あさひ博物村周辺施設群）	キャンプ場
	オートキャンプ場

⑤人的資源

狩猟技術

鷹匠

茅葺き

首都圏庄内あさひ会

仙台朝日会

墨田区交流

かだんこの会(青少年ボランティアグループ)

⑥情報資源

(2) 主な流動資源

①特産的資源

山菜(月山筍、わらび、ぜんまい、
たらの芽)

きのこ(なめこ、まいたけ)

山ぶどう

庄内柿

月山ワイン

とちもち

②中間生産物

<温海地域>

2 地域資源の明確化

(1) 主な固定資源

①自然資源

温海温泉（開湯一千年）
海（紺碧の海・夕陽）
山（杉山・紅葉）
川（清流）
立岩（暮坪）
念珠の松（鼠ヶ関）
海水浴場（鼠ヶ関）
日本国（小名部）

摩耶山（越沢）
温海岳（温海温泉）
四ノ滝（温海川）
玉スギ（山五十川）
おぼこおけさライン（庄内海浜県立自然公園）
マルバシヤリンバイ
棚田（越沢、暮坪）

②歴史的資源

関所址（鼠ヶ関）
源義経ゆかりの浜（鼠ヶ関）
孝子慶玉（早田）
大名行列（小国）

弓射れ神事（小国）
小国城址
戊辰の役古戦場（関川）
芭蕉句碑（暮坪）

③文化・社会資源

獅子舞（熊野神社）
あつみこけし（温海温泉）
さくらマラソン大会（温海温泉）
ケヤキキョウダイ（浜中）
神輿流し（鼠ヶ関）
全国大漁旗フェスティバル（鼠ヶ関）
トライアスロン大会（鼠ヶ関）

念珠関辨天太鼓（鼠ヶ関）
山戸能（山五十川）
山五十川歌舞伎
戸沢歌舞伎（花胡蝶歌舞伎）
獅子踊り（木野俣）
ワッパ舞（楨代）
一霞焼
カッパ焼

④施設資源

足湯カフェ「チットモッシェ」（温海温泉）
バラ公園（温海温泉）
共同浴場（温海温泉）
朝市（温海温泉）
米子漁港（暮坪）
海の釣堀センター（暮坪）
鼠ヶ関港

鼠ヶ関マリーナ
マリンパークねずがせき
キャンプ場（鼠ヶ関）
小国ふる里ふれあい村（楯山荘）
古典芸能伝承館（山五十川）
しな織センター（関川）
道の駅あつみ「しゃりん」（早田）

⑤人的資源

あつみ湯けむり女子会

まちづくりチーム YUKAI（湯温海）

さくらマラソン大会・トライアスロン大会参加者
ふるさと温海会
NPO 法人豊かな海の環境をめざすおけさ会
NPO 法人自然体験温海コーディネート

NPO 法人あつみ育成会
鼠ヶ関地域協議会「蓬莱塾」
福栄地域協議会「福の里」
鶴岡まちづくり塾温海グループ
地域農産物直売「んめっちゃ市」

⑥情報資源

(2) 主な流動資源

①特産的資源

温海かぶ（一霞）	しいたけ（小名部）
カラ竹（鈴）	そば（越沢）
アユ（五十川）	しな織（関川）
イカの一夜干し（鼠ヶ関）	べろべろ餅（関川）
寒ダラ汁（鼠ヶ関）	元禄餅
あつみ豚（小名部）	孟宗汁（早田）

②中間生産物

※日本総研の分類を参考にしています。

※2(1)⑤「人的資源」について、ほぼ全地域に共通する消防団、婦人会、体育協会、観光協会、芸術文化協会、交通安全協会、防犯協会、老人クラブ、PTA、スポーツ少年団、民生児童委員、生涯学習推進員、青少年育成推進員等は、記載を省略しています。

3 基本方針に定める「目指すコミュニティ像」の実現に向け、地域コミュニティが抱える課題

(1) 自治組織が抱える組織上・運営上の課題

①単位自治組織

<組織上の課題>

現状、問題意識	課題項目
【市民の意識】 ①隣近所の支え合い意識が低下してきている ②町内会や地域コミュニティへの無関心層が拡大している ③町内会活動に協力が少なく他人任せのところがある	○町内会の存在意義や活動に対する理解促進 ○町内会が抱える問題・課題の再認識と共有 ○隣近所・町内会で気軽に話し合える雰囲気や場づくり
【会員】 ①会員の少子高齢化が進んでいる ②新しい入居者で町内会に入らない世帯がある ③アパート入居者で町内会に入らない世帯がある	○町内会の存在意義や活動に対する理解促進 ○在住者や転入者への町内会加入の呼びかけ
【役員】 ①役員の高齢化が進んでいる ②少子高齢化の進展と若い世代の参加意識の希薄さもあり、役員の担い手不足と固定化が進んでいる ③行政からの依頼やチラシの配布、募金の取りまとめなど、役員の負担感が高まっている ④他団体における役員のあて職が多く負担になっている ⑤各種会議が平日に開催されることが多く、現役世代は会議への出席の難しさから役員を敬遠する人も多い	○組織の機能や役割等の見直し(役員の役割、分担、選出方法、負担軽減策等含む) ○担い手となる人材の確保・育成 ○役員の年間スケジュールの明確化 ○あて職を担うこととなる学区団体組織等の統合・再編に係る情報交換
【会費・資金】 ①会員減少による会費収入減少により町内会の財政運営が難しくなりつつある ②会費未納者が多くなってきている ③他団体への負担金が多く、町内会財政運営の負担が大きい	○町内会の存在意義や活動に対する理解促進 ○会費のあり方の検討 ○財政運営の見直し
【組織の規模】 ①組織規模の小さい町内会では、少子高齢化に起因する会員減少等により、今後、町内会を存続できるかどうか不安を抱えている ②会員減少で隣組を統合したところもある	○将来を見据えた隣組や町内会の再編に係る情報交換
【他の地域組織との関わり】	

【市街地】

<p>【行政との関わり】</p> <p>①各種の調査報告とりまとめ等、行政からの多様な依頼業務が町内会の負担となっている(行政の下請けとの苦情が多く聞かれる)</p> <p>②市他団体の総会や会議が多く、同日同時に開催されること等もあり苦慮している</p>	<p>○行政から町内会に依頼される仕事の洗い出しや整理・統合</p> <p>○行政の担当課同士による会合日程の調整・情報交換</p>
<p>【その他】</p> <p>①</p>	

<運営上の課題>

現状、問題意識	課題項目
<p>【組織の役割・機能】</p> <p>①</p>	
<p>【事業参加】</p> <p>①参加者が固定化、高齢化、減少している</p> <p>②子育てが終わった世帯で参加しない人もいる</p>	<p>○会員へ町内会事業への参加の呼びかけ</p>
<p>【事業日程】</p> <p>①</p>	
<p>【事業企画】</p> <p>①町内会事業がマンネリ化、固定化、地域内で実施されている他の事業と重複している</p> <p>②新旧住民、老若男女でニーズの相違がある</p>	<p>○参加層を意識した魅力的な事業企画立案と実施</p>
<p>【事業運営】</p> <p>①役員への負担が集中し、現状維持が精一杯で、地域の問題・課題に積極的に動けない状況にある</p> <p>②町内会単体では解決が難しい問題への対応を迫られることもある(引きこもり老人対策等)</p>	<p>○町内会事業等の喫緊の課題の洗い出し作業(住民ニーズの把握)</p> <p>○地域の課題は地域で解決していく意識の醸成、枠組み構築</p> <p>○関係機関、NPO、志縁団体との協力・連携体制の構築</p> <p>○町内会とコミセンの連携・役割分担</p> <p>○持続可能な事業運営のための人材育成・確保</p>
<p>【生涯学習(公民館活動)】</p> <p>①役員の負担が大きく、生涯学習事業の実施が困難になりつつある、手が回らないという声がある</p>	<p>○住民合意に基づく活動の優先順位付けや内容の見直し</p>
<p>【福祉】</p> <p>①高齢者や要支援者の増加が懸念される</p> <p>②認知症高齢者の増加と徘徊による帰宅困難者の増加が懸念される</p>	<p>○声掛け・見守り体制や個別支援計画の検討</p> <p>○組織連携型の広域的な支援組織の検討</p>

<p>【防犯・防災】</p> <p>①高齢者や要支援者が増加し、会員の高齢化・減少、若者の減少、さらに平日日中の人口減少等、地域の防犯・防災体制を弱体化させる要因が増えている</p> <p>②空き家が年々増加しており、防犯、防災上の不安を抱えている</p>	<p>○自主防災組織の充実</p> <p>○高齢者等への支援体制づくり</p> <p>○町内会と広域コミュニティ組織の連携・役割分担による安全・安心の確保</p> <p>○空き家の把握と見守り体制づくり</p> <p>○関係機関、NPO、志縁団体との協力・連携体制の構築</p>
<p>【生活環境整備】</p> <p>①アパート入居者に係るごみ処理等のマナー違反</p> <p>②高齢化や男手の不足もあり、河川清掃や側溝清掃等への協力要請が難しくなりつつある</p>	<p>○アパート入居者への町内会ルールの周知徹底</p> <p>○町内会の状況(年齢構成等)に応じた役割・作業分担、作業の簡略化の検討</p>
<p>【財産管理】</p> <p>①</p>	
<p>【情報伝達・収集】</p> <p>①世帯カード等を作成する際に情報が得にくい(特にアパート入居者)</p> <p>②世帯カード等を作成する際にどこまで情報提供をお願いすればよいかわからない</p>	<p>○緊急時や災害時に備えた個人情報の提供に係る理解促進</p> <p>○世帯カード等への記載項目の共有</p>
<p>【行政との関わり】</p> <p>①行政へ相談しても地域課題の解決が進まない不満がある</p>	<p>○地域と行政の協調・協力による課題解決の仕組みづくり</p>
<p>【その他】</p> <p>①近隣トラブルへどのように関与すべきか(心身上の病気、認知症・徘徊、一人暮らし高齢世帯の金銭的負担負えない等多岐)</p>	<p>○近隣トラブルに関する町内会の関わり方の検討、情報共有</p>

(1) 自治組織が抱える組織上・運営上の課題

②広域コミュニティ組織

<組織上の課題>

現状、問題意識	課題項目
<p>【市民の意識】</p> <p>①</p>	
<p>【会員】</p> <p>※会員は学区に所属する町内会の会員で構成されていることから、単位自治組織の組織上の課題と同じ</p>	<p>※会員は学区に所属する町内会の会員で構成されていることから、単位自治組織の組織上の課題と同じ</p>

【市街地】

<p>【役員】</p> <p>①構成役員は町内会や学区団体からのあて職となっており、町内会長等が中心で若い人が少ない</p> <p>②役員の高齢化・固定化が進み、役職も重複するケースも多く、負担が大きい</p> <p>③役員へ負担が集中し、地域の問題・課題に積極的に動けない状況にある</p>	<p>○役員の選定方法の検討</p> <p>○役員となる学区団体役員を確保するため、学区団体組織の活性化と人材確保</p> <p>○役員の負担軽減のための組織改革</p> <p>○関係機関、NPO、志縁団体との協力・連携体制の構築</p>
<p>【会費・資金】</p> <p>①</p>	
<p>【町内会との関わり】</p> <p>①町内会の統廃合は広域コミュニティ組織から主導してほしいとの声がある</p> <p>②少子高齢化に伴い、町内会の機能は縮小傾向にある</p>	<p>○将来を見据えた隣組や町内会の再編に係る情報交換</p> <p>○広域コミュニティ組織による単位町内会の機能補完、適切な支援やアドバイス</p>
<p>【組織の規模】</p> <p>①学区と広域コミュニティ組織の範囲が必ずしも一緒ではなく、活動への思い入れ等に温度差が生じている</p>	<p>○情報の共有</p> <p>○一体感の醸成</p>
<p>【他の地域組織との関わり】</p> <p>①各種団体・協議会が多く、地域における組織を整理する議論が必要</p> <p>②同じ顔ぶれの学区会合が多く、会合自体も多い</p>	<p>○学区団体組織及び町内会の統合・再編に係る情報交換</p>
<p>【行政との関わり】</p> <p>①行政へ相談しても地域課題の解決が進まない不満がある</p>	<p>○広域コミュニティ組織と行政の信頼関係の構築</p> <p>○地域と行政の協調・協力による課題解決の仕組みづくり</p>
<p>【その他】</p> <p>①</p>	

<運営上の課題>

現状、問題意識	課題項目
<p>【組織の役割・機能】</p> <p>①町内会と広域コミュニティ組織との連携・役割分担により、役員等の負担を少なくしながら、より効果の上がる事業活動が求められている</p> <p>②広域コミュニティ組織の役割や機能の考え方は多様に存在する</p>	<p>○町内会と広域コミュニティ組織の連携・役割分担</p> <p>○地域課題を踏まえた広域コミュニティ組織の役割、機能の再整理</p> <p>○課題解決型広域コミュニティ組織運営への転換</p> <p>○広域コミュニティ組織事業等の喫緊の課題の洗い出し作業</p> <p>○住民の声を反映した地域ビジョンづくり</p>
<p>【事業参加】</p> <p>①参加者が固定化、高齢化、減少している</p>	<p>○周知方法の見直し</p>
<p>【事業日程】</p> <p>①学区事業と町内会事業の日程調整が難しい</p>	<p>○広域コミュニティ組織の調整機能の発揮</p>

<p>【事業企画】 ①事業がマンネリ化、固定化、地域事業と重複している</p>	<p>○魅力的な事業企画・実施 ○組織や事業の統合・再編 ○関係機関との協力・連携体制の構築 ○持続可能な運営のための人材育成・確保、資金管理</p>
<p>【事業運営】 ①市民に開かれた広域コミュニティ組織運営が求められている ②事業が多く、広域コミュニティ組織事務局の負担が増加している</p>	<p>○市民が気軽に集まれる場づくり ○子どもから高齢者まで事業等への参加意識の醸成 ○町内会と広域コミュニティ組織の連携・役割分担 ○広域コミュニティ組織の運営形態の見直し ○地区内における組織連携の強化 ○関係機関、NPO、志縁団体との協力・連携体制の構築</p>
<p>【生涯学習】 ①</p>	
<p>【福祉】 ①高齢者や要支援者の増加が懸念される</p>	<p>○見守り体制や個別支援計画の検討</p>
<p>【防犯・防災】 ①高齢者や要支援者が増加し、会員の高齢化・減少、若者の減少、さらに平日日中の人口減少等、地域の防犯・防災体制を弱体化させる要因が増えつつある ②空き家が年々増加しており、防犯、防災上の不安を抱えている ③安全・安心に係る広域コミュニティ組織と町内会の役割分担ができていない</p>	<p>○見守り及び支え合いの体制づくり ○自主防災組織の充実、災害時の連絡網の確立 ○町内会と広域コミュニティ組織との連携による安全・安心の確保 ○消防団 OB の組織化(消防団活動協力員の強化含む)</p>
<p>【生活環境整備】 ①</p>	
<p>【情報伝達・収集】 ①一人暮らしや高齢者世帯等の緊急時連絡者(家族関係者)の情報が得にくい ②要支援者の生活実態がわからない</p>	<p>○情報伝達・収集方法の創意工夫 ○学区内組織との関係構築による情報伝達・収集力の向上 ○緊急時や災害時に備えた個人情報提供に係る理解促進</p>
<p>【施設】 ①施設利用受付・貸出(希望日に取れない) ②今後増加する高齢者が利用しやすいコミュニティ(防災)センター環境整備</p>	<p>○施設利用受付・貸出方法の見直し ○コミュニティ(防災)センターのバリアフリー化の推進</p>
<p>【他の地域組織との関わり】 ①学区団体の各種活動のマンネリ化 ②学区団体の集まるメンバーの固定化 ③参加者を惹きつける学区団体の楽しさや魅力の不足</p>	<p>○青年層(若者)の参画 ○学区団体等と広域コミュニティ組織との連携強化 ○広域コミュニティ組織職員や役員、リーダーの人材育成</p>
<p>【行政との関わり】 ①</p>	

【その他】 ①	
------------	--

(2) 地域（住民）が抱える課題

現状、問題意識	課題項目
【地域連帯感の希薄化、帰属意識の低下】 ①	
【高齢化の進展(高齢者の増加)】 ①	
【少子化の進展(子どもの減少)、子育て環境の変化】 ①	
【晩婚化、未婚化の進展】 ①	
【若者の流出】 ①	
【日中人口の減少】 ①	
【地域伝統芸能文化の継承】 ①	
【地域団体の活力低下、多様化】 ①	
【空き家の増加】 ①	
【地域交通の不便さ】 ①	
【その他】 ①アパートが多く立地し、入居者の未加入やマナー違反が問題となっている	<ul style="list-style-type: none"> ○町内会の存在意義や町内会活動に対する理解促進 ○町内会加入の呼びかけ ○町内会ルールの周知徹底

3 基本方針に定める「目指すコミュニティ像」の実現に向け、地域コミュニティが抱える課題

(1) 自治組織が抱える組織上・運営上の課題

①単位自治組織

<組織上の課題>

現状、問題意識	課題項目
【市民の意識】 ①隣近所がなくても生活できる環境が整い、隣近所付き合いが少なくなっている ②世代間交流が十分に図られていない ③世帯数が減少し行事が出来なくなる等、住民会活動が低迷しつつある ④人口減少社会において、地域課題の増加が懸念される	○住民会の存在意義や活動に対する理解促進 ○住民会が抱える問題・課題の再認識と共有 ○住民合意に基づく活動の優先順位付けや内容の見直し
【会員】 ①会員の高齢化が進み、かつ減少している ②新しい入居者(I ターン等)で住民会に入らない世帯がある	○住民会の存在意義や活動に対する理解促進 ○将来を見据えた組織再編の検討 ○転入者への住民会加入の呼びかけ ○元村住民と新住民の融合
【役員】 ①役員の担い手不足により固定化が進んでいる ②世帯数が少ないのに(減少傾向にあるのに)役職数は変わらず多く、世帯数が少ないからすぐに役がまわってくるとの声がある ③役員が1年交替のところもあり課題解決までに至らない	○組織の機能や役割等の見直し(役員の役割分担、選出方法、負担軽減策等含む) ○担い手となる人材の確保・育成
【会費・資金】 ①会員減少等による会費収入の減少により、住民会の財政運営が難しくなりつつある ②市街地に比べて会費が高いという声がある ③住民負担が重いという声がある(住民会費、互助会費、振興会費、公民会費、神社、寺等々)	○財政運営の見直しと会費の有り方の検討 ○住民会の存在意義や活動に対する理解促進 ○将来を見据えた住民会再編に係る情報交換
【組織の規模】 ①20世帯以下の小規模住民会が25あり、少子高齢化が進展する中で、今後の維持に不安を抱えている ②集落内に2つの学区が存在するところもある	○周辺住民会との連携、広域コミュニティ組織による支援機能構築(補完機能) ○将来を見据えた住民会再編に係る情報交換 ○住民会内における情報共有と一体感の醸成
【他の地域組織との関わり】 ①	
【行政との関わり】 ①	

【その他】 ①	
------------	--

＜運営上の課題＞

現状、問題意識	課題項目
【組織の役割・機能】 ①	
【事業参加】 ①参加者が固定化、高齢化、減少している	○住民会事業の周知方法の見直し ○住民合意に基づく活動の優先順位付けや内容の見直し
【事業日程】 ①	
【事業企画】 ①	
【事業運営】 ①会員の高齢化や減少により、実施困難な事業が発生しつつある(スポーツ事業、祭典等) ②地域事業が多く負担が大きいと感じる人がいる ③リーダーが不足している ④会員減少や高齢化で運営資金不足が懸念される	○住民会事業等の喫緊の課題の洗い出し ○住民合意に基づく活動の優先順位付けや内容の見直し ○担い手となる人材の確保・育成 ○運営・活動資金の確保と、会員の理解と協力が得られるような適正配分
【生涯学習(公民館活動)】 ①	
【福祉】 ①一人暮らし世帯、高齢者世帯、要支援者の増加が懸念される	○高齢者世帯等への声掛け・見回りの仕組みづくり
【防犯・防災】 ①高齢者や要支援者が増加し、会員の高齢化・減少、若者の減少、さらに平日日中の人口減少等、地域の防犯・防災体制を弱体化させる要因が増えている	○広域的な防災体制の整備 ○消防団 OB の組織化(消防団活動協力員の強化含む)
【生活環境整備】 ①会員の高齢化や減少により、除草作業や側溝清掃等への協力要請が難しくなりつつある	○住民会の状況(年齢構成等)に応じた役割・作業分担、作業の簡略化の検討
【財産管理】 ①自治公民館等の維持・管理経費が増大している	○自治公民館等の適切な維持・管理方策の検討 ○代替施設等の可能性に係る検討
【情報伝達・収集】 ①(緊急時や災害時への備えとして)要支援者等に係る情報が得にくい ②住民会名簿を作成する際に情報が得にくい	○緊急時や災害時に備えた個人情報の提供に係る理解促進
【行政との関わり】 ①行政の多用な依頼(下請け的)が住民会の負担になっている	○行政からコミュニティ組織に依頼される仕事の洗い出しや整理・統合

【その他】 ①	
------------	--

(1) 自治組織が抱える組織上・運営上の課題

②広域コミュニティ組織

<組織上の課題>

現状、問題意識	課題項目
【市民の意識】 ①	
【会員】 ※会員は学区に所属する住民会の会員で構成されていることから、単位自治組織の組織上の課題と同じ	※会員は学区に所属する住民会の会員で構成されていることから、単位コミュニティ組織の組織上の課題と同じ
【役員】 ①役員が一斉に変わるところもあり、地域の問題・課題に向け積極的に動けない状況にある ②後継者が育たない	○役員の選出方法の検討 ○人材育成・確保
【会費・資金】 ①会費が高いとの声がある ②会員減少による資金不足が心配される	○財政運営の見直し ○コミュニティビジネスを含めた活動資金の確保策の検討 ○会費のあり方の検討
【町内会との関わり】 ①住民会単独での行事ができなくなっている ②住民会と広域コミュニティ組織で重なる事業もある ③住民会への支援が十分行き届いていないとの声もある	○住民会と広域コミュニティ組織の連携、事業の範囲と役割の調整・明確化 ○周辺住民会との連携 ○住民会への支援体制の整備(機能補完) ○地域活動をサポートする人材の育成・確保
【組織の規模】 ①小学校区のエリアが、コミュニティ活動の実態と一致していないところもあり、一体感を作りあげていくことが難しい	○情報の共有 ○一体感の醸成
【他の地域組織との関わり】 ①地域にリーダーが育たない	○地域のリーダーとなる人材育成・確保
【行政との関わり】 ①	
【その他】 ①	

＜運営上の課題＞

現状、問題意識	課題項目
【組織の役割・機能】 ①広域コミュニティ組織の存在意義や拠点施設としてのあり方が問われている ②住民会の小規模化が進み、住民会の負担が益々大きくなっている	○住民会と広域コミュニティ組織の役割と事業範囲の明確化 ○住民の声を反映した地区ビジョンづくり ○小規模化が進む住民会への支援・補完機能 ○住民会再編の検討 ○拠点性と発信力を強め、人的ネットワークを拡大
【事業参加】 ①老人クラブ(高齢者)や小学校(児童)へのアンケート結果によれば、声がかかれば手伝ってもよい、参加してもよいとする回答がある	○住民に開かれた会議運営(多様な年齢層に情報共有を図り参加を促す) ○周知方法の見直し
【事業日程】 ①	
【事業企画】 ①事業のマンネリ化、固定化、地域事業と重複している ②会員の価値観が多様化している	○魅力的な事業企画・実施 ○組織や事業の統合・再編 ○関係機関との協力・連携体制の構築 ○持続可能な運営のための人材育成・確保、資金管理
【事業運営】 ①役員が一斉に変わるところもあり、地域の問題・課題に積極的に動けない状況にある ②事業が多く、広域コミュニティ組織事務局の負担が増加している	○事業等の喫緊の課題の洗い出し ○住民会と広域コミュニティ組織の連携・役割分担 ○関係機関、NPO、志縁団体との協力・連携体制の構築
【生涯学習】 ①	
【福祉】 ①	
【防犯・防災】 ①消防団員が平日日中集落にいない	○広域的な防災体制の整備 ○消防団 OB の組織化(消防団活動協力員の強化含む)
【生活環境整備】 ①	
【情報伝達・収集】 ①	
【施設】 ①	
【他の地域組織との関わり】 ①	
【行政との関わり】 ①	
【その他】 ①	

(2) 地域（住民）が抱える課題

現状、問題意識	課題項目
【地域連帯感の希薄化、帰属意識の低下】 ①住民流出による過疎化の進行(市街地への流出)	○移住・定住の勧誘活動の促進 ○地域の魅力の再発見
【高齢化の進展(高齢者の増加)】 ①高齢者の買い物が困難になっている ②高齢者にとって除雪作業や屋根の雪下し作業が大きな負担となっている	○市街地への移動手段の確保 ○高齢者等への除雪支援体制の構築
【少子化の進展(子どもの減少)、子育て環境の変化】 ①小学校の再編が進んでいる。これにより、児童居住地における放課後教室等の場の減少や、学校と地域が協働で取り組んできた事業がなくなることによる地域活力の低下が懸念されている	○児童居住地への学童保育や放課後教室等の場の確保 ○子どもが地域活動に参加する機会の提供
【晩婚化、未婚化の進展】 ①	
【若者の流出】 ①地域に就労先が少なく子ども達が流出傾向にある	○コミュニティビジネスの検討 ○地域の魅力の再発見(大人も子供も)
【日中人口の減少】 ①	
【地域伝統芸能文化の継承】 ①人口減少により担い手が不足し、伝統芸能の継承に不安を抱えている ②神社等への思い入れが薄くなってきている	○担い手の確保 ○伝統芸能への理解促進 ○氏子としての位置付けの理解促進
【地域団体の活力低下、多様化】 ①	
【空き家の増加】 ①	
【地域交通の不便さ】 ①バスの本数も少なく交通が不便である ②バスが通らない集落もある ③児童はバス通学である	○高齢者等における市街地への移動手段の確保 ○児童の通学に係る安全確保 ○コミュニティビジネスの検討
【その他】 ①郊外地は、山間地域や海岸地域があり、集落規模や立地条件等も多様 ②コミセンまでの距離が遠く集まりにくい ③住民流出による過疎化の進行(市街地への流出) ④有害鳥獣による農作物等への被害が問題となっている ⑤山林・農地・生態系の保全が行き届いていない ⑥地区内に医院がなくて不安に感じている ⑦地域資源の活用が経済的にうまく結びつかない	○集落等支援に関する考え方を整理 ○広域コミュニティ組織と住民会との連携強化 ○移住・定住の勧誘活動の促進 ○コミュニティビジネスの検討 ○鳥獣被害対策の実施 ○山林・農地等の保全に係る関係機関との連携 ○医療体制の確立 ○地域資源の活用の見直し

3 基本方針に定める「目指すコミュニティ像」の実現に向け、地域コミュニティが抱える課題

(1) 自治組織が抱える組織上・運営上の課題

①単位自治組織

<組織上の課題>

現状、問題意識	課題項目
【市民の意識】 ①住民が自己中心的になってきており、組織に縛られることを嫌う傾向がある	○町内会の存在意義や活動に対する理解促進を図り、災害時の町内会の重要性など認識してもらう
【会員】 ①若者の流出により高齢化している	○若者の定住対策の促進
【役員】 ①後継者不足と高齢化が深刻になっている	○業務の見直しにより、役員個人の負担軽減を図り、町内会全体で担う仕組みを検討していく ○選出方法の見直し
【会費・資金】 ①小規模町内会では会費負担が重くなっている	○財政運営の見直し ○会費負担の基準の見直し
【組織の規模】 ①小規模町内会では自治組織としての機能維持が難しくなっている	○周辺住民会との連携、広域コミュニティ組織による支援機能構築(補完機能)
【他の地域組織との関わり】 ①ひとりでいくつも役職を持たなければならず、仕事量が増大している	○町内会内にある様々な組織の整理及び簡素化を図る
【行政との関わり】 ①	
【その他】 ①	

<運営上の課題>

現状、問題意識	課題項目
【組織の役割・機能】 ①	
【事業参加】 ①少子化による子供会活動の低迷	○周辺子供会や広域コミュニティ組織との連携強化
【事業日程】 ①町内会事業に加えて、地区事業や地域事業もあり過密になっている	○町内会、広域コミュニティ組織、市の業務分担を整理する

【藤島地域】

【事業企画】 ①事業がマンネリ化している	○参加層を意識した魅力的な事業企画立案と実施
【事業運営】 ①会員の高齢化や減少により、実施困難な事業が発生しつつある(スポーツ事業、祭典等)	○住民合意に基づく活動の優先順位付けや内容の見直し
【生涯学習(公民館活動)】 ①	
【福祉】 ①高齢者世帯、要介護者などが増加している	○高齢者世帯への声掛け・見回りの仕組みづくり
【防犯・防災】 ①消防団員の担い手が不足しており、安全・安心な生活が脅かされている ②高齢者や要支援者が増加し、会員は高齢化・減少、若者は減少、さらに日中の人口が減少する等、地域の防犯・防災体制を弱体化させる要因が増えてきている	○消防団OBの協力員への加入を推進する ○災害時における要介護者や高齢者世帯への支援体制づくり
【生活環境整備】 ①高齢化や世帯減少により河川・公園など市や県からの管理委託を受けられなくなっている ②連絡のとれない空き家が増えており、動物が住みつき、周辺に被害を与えている	○町内会の状況(年齢構成等)に応じた役割・作業分担、作業の簡略化の検討 ○空き家管理者の情報収集
【財産管理】 ①農地や林野を維持するための共同作業が困難	○管理業務や作業体制の見直し
【情報伝達・収集】 ①個人情報保護法以前は、町内会長に転入・転出者の連絡が来たが、今は人の出入りがわからない	○転入者へ町内会加入を強く案内する
【行政との関わり】 ①各種の寄付・募金が多くなり、住民の金銭的負担が重くなっている また、集金の回数が多いため、役員の労力負担も増えている	○住民会と行政の信頼関係の構築 ○行政からコミュニティ組織に依頼される仕事の洗い出しや整理・統合
【その他】 ①	

(1) 自治組織が抱える組織上・運営上の課題

②広域コミュニティ組織

<組織上の課題>

現状、問題意識	課題項目
【市民の意識】 ①広域コミュニティ組織への参加のあり方について、まだ理解が進んでいない	○広域コミュニティ組織の活動内容のPR

【藤島地域】

【会員(構成員)】 ※会員は学区に所属する町内会の会員で構成されていることから、単位コミュニティ組織の組織上の課題と同じ	※会員は学区に所属する町内会の会員で構成されていることから、単位コミュニティ組織の組織上の課題と同じ
【役員】 ①理事が町内会や団体からのあて職中心で、選出区分の任期で交代してしまうため、事務局頼みになってしまう	○将来的には、町内会役員以外から役員を選出するなど役員選任方法の検討 ○役員と事務局の情報共有体制の強化
【会費・資金】 ①新たな事業に取り組む時には財源確保が必要となる	○負担意識の醸成→会費導入化
【町内会との関わり】 ①広域コミュニティ組織ができたばかりということもあり、町内会と広域コミュニティ組織との役割分担が明確になっていない	○町内会と広域コミュニティ組織の事業を整理し、役割を明確化していく
【組織の規模】 ①5組織あるが、地区の大小により規模に差がある ②小学校区のエリアが、広域コミュニティ組織と一致していない組織があるため、小学校やPTAと調整が必要	○広域コミュニティ組織間の連携強化 ○広域コミュニティ組織と学校、PTAとの連絡体制づくり
【他の地域組織との関わり】 ①多くの組織が地区(広域コミュニティ区域)にあり、あて職も多くあるので、役員の仕事量が増大している	○広域コミュニティ組織区域内にある様々な組織の整理
【その他】 ①広域コミュニティ組織間の情報共有、連絡調整機能がない	○広域コミュニティ組織間の連絡体制づくり

< 運営上の課題 >

現状、問題意識	課題項目
【組織の役割・機能】 ①これまで地区公民館事業として行っていた事業はあるが、新たに取り組むべき活動が手探り状態である	○地区の課題を把握し、事業化を検討していく
【事業参加】 ①参加者が固定化している	○新たな人材の掘り起し
【事業日程】 ①多くの組織が地区(広域コミュニティ区域)にあるので、日程が過密になっている	
【事業企画】 ①各種企画がマンネリ化している	○事業の整理、再編に向けて検討する
【事業運営】 ①運営役員は、ほぼ固定化しており、新たな役員を確保する必要がある	○担い手となる人材の育成・確保

【藤島地域】

【生涯学習】 ①地区公民館として取り組んできた事業の継続と発展	○若手人材の育成・確保
【福祉】 ①町内会と市の間であって、役割分担が整理されていない ②高齢者世帯が増加している	○各町内会の状況を把握し、広域コミュニティ組織で取り組むべき課題を整理する
【防犯・防災】 ①町内会と広域コミュニティ組織、市の3者の役割分担が明確でない ②日中の人口が減少しており、防犯・防災体制が弱体化している	○打ち合わせや防災訓練などで3者間において情報共有を図り、役割を整理・確認していく ○高齢者世帯への声掛け・見回りのしくみづくり
【生活環境整備】 ①空き家の増加で有害鳥獣の被害が増加している ②環境維持体制の弱体化(除草作業や側溝清掃への人手不足)	○空き家情報の収集 ○有害鳥獣駆除方法について情報共有を図る ○町内会の状況に応じた作業分担の見直しと作業の簡略化
【情報伝達・収集】 ①緊急時に、町内会と広域コミュニティ組織、市の3者の情報伝達方法をより確立していく必要がある	○情報伝達機器を適切に配備するとともに、緊急時の情報伝達手順を確認しておく
【施設】 ①災害時拠点施設に指定され、各種資機材が増えていることから、手狭になってきている	
【他の地域組織との関わり】 ①	
【行政との関わり】 ①地域の諸問題解決のため、住民と行政の橋渡し役を広域コミュニティ組織が担ってほしい	○住民と行政の橋渡し機能構築
【その他】 ①	

(2) 地域（住民）が抱える課題

現状、問題意識	課題項目
【地域連帯感の希薄化、帰属意識の低下】 ①農業など地域で一体となって取り組む産業が衰退し、つながりが少なくなった	
【高齢化の進展(高齢者の増加)】 ①高齢者世帯や要支援者の増加により、組織活動が弱体化するとともに、役員や見守り者に新たな負担が増えている	○ボランティアなど新たな支援組織の育成
【少子化の進展(子どもの減少)、子育て環境の変化】 ①登校班の子供が少なくなり、ひとりで歩く距離が長くなっている	○登校班編成の見直しと見守り活動の充実

【藤島地域】

<p>【晩婚化、未婚化の進展】</p> <p>①晩婚化、未婚化により少子高齢化に結びついている</p>	<p>○町内会や広域コミュニティ組織での情報交換</p>
<p>【若者の流出】</p> <p>①町内会対抗スポーツ大会への参加チームが少なくなり、大会実施に支障が出ている</p>	<p>○チーム編成の見直し</p>
<p>【日中人口の減少】</p> <p>①高齢世帯が多くなり、悪質商法の被害にあう事件が増えてきた</p>	<p>○悪質商法についての情報共有と、近隣での見守り体制の構築</p>
<p>【地域伝統芸能文化の継承】</p> <p>①若者不在のため獅子踊りも休止団体が増えつつある</p>	<p>○伝統芸能継承について支援策の検討</p> <p>○単位集落でなく広域的な対応の検討</p>
<p>【地域団体の活力低下、多様化】</p> <p>①</p>	
<p>【空き家の増加】</p> <p>①空き家に動物やハチなどが住み着き、周辺住民に被害を与えている</p> <p>②倒壊の危険性のある空き家が増えており、周辺住民に不安を与えている</p>	<p>○市または町内会による所有者への適正な維持管理の指導</p>
<p>【地域交通の不便さ】</p> <p>①利便性が悪いため利用者が少なくなっており、さらに便数が減るなど悪循環に陥っている</p>	<p>○デマンド交通の運行形態見直しのための要望調査を行う</p> <p>○既存の公共交通について、利用促進のための実態調査を行い、ニーズにあった運行形態を探る</p>
<p>【その他】</p> <p>①</p>	

3 基本方針に定める「目指すコミュニティ像」の実現に向け、地域コミュニティが抱える課題

(1) 自治組織が抱える組織上・運営上の課題

①単位自治組織

<組織上の課題>

現状、問題意識	課題項目
【市民の意識】 ①近隣関係の希薄化 ②職業の多様化による結束力の弱体化 ③自治組織へ加入しない世帯がある	<input type="checkbox"/> 近隣関係の再構築 <input type="checkbox"/> 自治組織の存在意義の周知と市民意識の向上 <input type="checkbox"/> 自治組織加入への呼びかけ
【会員】 ①会員の情報がわからない	<input type="checkbox"/> 会員名簿の作成、必要性への理解促進 <input type="checkbox"/> 個人情報の取得や取り扱い方法の検討
【役員】 ①役員を選出に苦勞する ②兼務が多い	<input type="checkbox"/> 人材の育成が必要 <input type="checkbox"/> 役員の仕事内容の再検討 <input type="checkbox"/> 市民意識の向上
【会費・資金】 ①年金暮らし、収入の減少により会費収入が減少 ②小規模集落で1戸当たりの負担が大きい	<input type="checkbox"/> 運営方法の見直し <input type="checkbox"/> 集落再編の検討
【組織の規模】 ①小規模集落で1世帯当たりの負担が大きい	<input type="checkbox"/> 運営方法の見直し <input type="checkbox"/> 集落再編の検討
【他の地域組織との関わり】 ①会費や負担金などの依頼が様々で手間がかかる	<input type="checkbox"/> 納入時期や方法について、関係団体との協議
【行政との関わり】 ①行政からの依頼業務が多い ②負担金や募金依頼が多い。依頼時期も様々で手数がかかる。募金へ協力必要か	<input type="checkbox"/> 行政依頼業務の見直し <input type="checkbox"/> 納入時期や方法について、市内部での調整と協議
【その他】 ①	

<運営上の課題>

現状、問題意識	課題項目
【組織の役割・機能】 ①共同作業への参加率の低下	<input type="checkbox"/> 共同作業体制の見直し
【事業参加】 ①参加者の減少、固定化 ②若者の参加の減少	<input type="checkbox"/> 事業目的と内容の再検討

【羽黒地域】

【事業日程】 ①就労形態の多様化により行事日程の調整が難しい ②子供が忙しく行事への参加が少ない	<input type="checkbox"/> コミュニティ活動に対する企業や社会の理解促進 <input type="checkbox"/> 事業内容の再検討 <input type="checkbox"/> 学校事業・スポ少活動との調整
【事業企画】 ①改善や工夫がない	<input type="checkbox"/> 事業内容の再検討
【事業運営】 ①幼児小学生がいなくて運動会等に困っている	<input type="checkbox"/> 少子化対策 <input type="checkbox"/> 事業内容の検討
【生涯学習(公民館活動)】 ①若者のリーダー育成が必要	<input type="checkbox"/> 若者のリーダー育成の推進
【福祉】 ①	
【防犯・防災】 ①自主防災機能が果たされていない	<input type="checkbox"/> 機能が果たされない原因調査と対策の推進
【生活環境整備】 ①	
【財産管理】 ①	
【情報伝達・収集】 ①	
【行政との関わり】 ①	
【その他】 ①	

(2) 地域(住民)が抱える課題

現状、問題意識	課題項目
【地域連帯感の希薄化、帰属意識の低下】 ①つながりや顔の見える関係が低下	<input type="checkbox"/> 近隣関係の再構築
【高齢化の進展(高齢者の増加)】 ①高齢者一人暮らしが多い	<input type="checkbox"/> 高齢者の見守り対策の推進
【少子化の進展(子どもの減少)、子育て環境の変化】 ①子どもの通学の安全確保(少子化で帰りが一人) ②集落内の子どもが年々減少している	<input type="checkbox"/> 子どもの見守り対策の推進 <input type="checkbox"/> 少子化対策の推進
【晩婚化、未婚化の進展】 ①男性の一人暮らしが多い ②未婚者が多い	<input type="checkbox"/> 婚活事業の推進
【若者の流出】 ①農家の後継者、若い人がいない	<input type="checkbox"/> 農業環境の改善 <input type="checkbox"/> 新規就農者への支援
【日中人口の減少】 ①	
【地域伝統芸能文化の継承】 ①史跡・神社の維持管理や行事の負担	<input type="checkbox"/> 担い手の確保、負担軽減の検討

【羽黒地域】

<p>【地域団体の活力低下、多様化】</p> <p>①</p>	
<p>【空き家の増加】</p> <p>①管理不良の空家による居住環境への悪影響がある</p>	<p>○管理不良空家の対策強化</p>
<p>【地域交通の不便さ】</p> <p>①高齢者の移動手手段の確保</p>	<p>○利用しやすい公共交通等の整備</p>
<p>【その他】</p> <p>①豪雪対策、除排雪対策が必要</p> <p>②米価の低下など農業収入の減収による生活不安</p> <p>③防犯・防災において、個別受信機が使えなくなり 外の防災無線は聞き取れず、今までより情報が得られず心配である</p> <p>④熊など野生動物による農業被害や危険がある</p>	<p>○除排雪の支援</p> <p>○農業環境の改善</p> <p>○防災情報を取得する方法の周知や情報提供方法の検討</p> <p>○被害対策の推進(猟友会や関係機関との連携)</p>

3 基本方針に定める「目指すコミュニティ像」の実現に向け、地域コミュニティが抱える課題

(1) 自治組織が抱える組織上・運営上の課題

①単位自治組織

<組織上の課題>

現状、問題意識	課題項目
【市民の意識】 ①新興住宅地がある地区や一部の地区でコミュニティ意識や人のつながりの希薄化が心配されている	<input type="checkbox"/> 自治会活動への理解促進 <input type="checkbox"/> 住民同士の交流の促進
【会員】 ①	
【役員】 ①経費削減のための役員の兼務が、役員の負担増につながっている ②定年延長、再雇用等高齢者が仕事をするようになり役員のなり手が不足し、役員の固定化につながっている ③小規模の地区においては、組織の役職が多いがなり手が少ないため、同じ人が何度も役員になり負担となっている ④役員が若手まで下りてきており、この先の担い手が不足している ⑤晩婚化による子育て時期の高年齢化により、PTA役員と地区役員が重なり負担となっている	<input type="checkbox"/> 役員の役割・分担の見直しと負担軽減策の検討 <input type="checkbox"/> 組織の見直し <input type="checkbox"/> 人材育成、担い手となる人材の確保
【会費・資金】 ①高齢者世帯が増加し、地区費の減免が自治会運営に影響を与えている	<input type="checkbox"/> 収入に見合った地区運営の検討
【組織の規模】 ①	
【他の地域組織との関わり】 ①青年会や若妻会など若者組織の活動が停滞している地区が見られる ②地域婦人会から脱会する地区が出ており、地域婦人会全体との連携が失われることが心配されている	<input type="checkbox"/> 若者組織の活性化 <input type="checkbox"/> 婦人会活動のあり方の見直し
【行政との関わり】 ①文書配布や募金・会費の集金等、行政や団体からの依頼が自治会の負担となっている	<input type="checkbox"/> 行政から自治会に依頼される業務の整理、見直し
【その他】 ①	

<運営上の課題>

現状、問題意識	課題項目
【組織の役割・機能】 ①	
【事業参加】 ①地区行事に中高生の参加が少ない地区がある	○若者が事業の企画・実施に参画する体制作り
【事業日程】 ①休日出勤や残業などで地区行事に参加できない人が増えている傾向にある	○事業開催日程の見直し
【事業企画】 ①	
【事業運営】 ①人口減少を背景とした担い手不足により、伝統芸能や祭事の維持・継承に不安を感じている地区がある	○若者の定住促進 ○結婚し子供を産み育てるための環境整備、支援の拡充
【生涯学習(公民館活動)】 ①	
【福祉】 ①地区内に仕組みとして、高齢者の買い物や通院などの交通手段をサポートする体制がない	○高齢者の交通手段をサポートする体制の検討 ○高齢者へ買い物や医療などを提供する体制の検討
【防犯・防災】 ①自主防災組織が形式的な地区が見られる。有事の際に機能できるか心配する声が出ている ②就業形態の多様化、就業先の理解不足やプレッシャーなどから消防団に入団する若者の確保が難しくなっている ③倒壊の危険性や犯罪の温床になることが懸念される空き家がある	○自主防災組織の訓練の充実 ○消防団活動への理解促進 ○空き家の所有者情報の管理 ○空き家所有者への適正管理の指導
【生活環境整備】 ①高齢者世帯の増加により、共同作業への参加者が減少傾向にある	○共同作業のあり方の見直し
【財産管理】 ①山林や墓地など地区共有財産の所在や境界が不明確なままになっているものがある ②山を知っている人が高齢化し、山林の財産の境界を引き継ぐことが難しくなっている ③財産の歴史や経過がきちんと管理されておらず、役員に引き継がれていくか不安がある	○地区共有財産に関する境界・歴史経過の確認と引継ぎ
【情報伝達・収集】 ①転入転出者の情報が入手できず自治会員の把握が難しい	○情報収集体制の検討
【行政との関わり】 ①	

<p>【その他】</p> <p>①見守り隊の参加人数が減ってきており、継続するのが難しくなっている</p>	<p>○見守り隊の活動体制の見直し</p>
---	-----------------------

(2) 地域（住民）が抱える課題

現状、問題意識	課題項目
<p>【地域連帯感の希薄化、帰属意識の低下】</p> <p>①</p>	
<p>【高齢化の進展(高齢者の増加)】</p> <p>①自力で雪下ろしができず業者等に依頼する必要があるため、その費用が負担となっている</p> <p>②災害が発生した場合、避難に援護が必要な高齢者が多くいる</p>	<p>○高齢者世帯の雪下ろしに対する支援</p> <p>○要援護者の避難のマニュアル化</p>
<p>【少子化の進展(子どもの減少)、子育て環境の変化】</p> <p>①</p>	
<p>【晩婚化、未婚化の進展】</p> <p>①民間や行政が提供する男女の出会いの場は増えてはいるものの、晩婚化・未婚化が進行している</p> <p>②世話焼きの活動や結婚したい人を地域で後押しする環境が衰退している</p> <p>③40～50代の独身者が増えている。将来的に高齢者世帯や空き家の増加にもつながるため、心配する声が上がっている</p>	<p>○結婚したい人を支援する地域体制の構築</p> <p>○世話焼き・仲人活動の環境づくり</p>
<p>【若者の流出】</p> <p>①後継ぎでない若者は進学・就職で地域外に転出する傾向にある。特に大卒者は希望の職種が少ないため地元に戻らない傾向にある</p>	<p>○若者の定住促進(再掲)</p>
<p>【日中人口の減少】</p> <p>①消防団員が日中ほとんど地区にいないため、有事の際が心配である</p>	<p>○消防団活動協力員と消防署・消防団の連携</p>
<p>【地域伝統芸能文化の継承】</p> <p>①担い手不足が今後想定されるため、保存・伝承していけるか不安がある</p> <p>②黒川能の能座から抜ける家ができており、能や祭りと自治会との連携が難しくなっている</p>	<p>○担い手の確保</p> <p>○伝統芸能への理解促進</p>
<p>【地域団体の活力低下、多様化】</p> <p>①</p>	
<p>【空き家の増加】</p> <p>①朽ちた空き家に棲みついた野生動物が、農作物に被害を与えている状況が見られる</p>	<p>○空き家所有者への適正管理の指導(再掲)</p>
<p>【地域交通の不便さ】</p> <p>①交通手段がなく、日常生活を送るために必要な通院や買い物などが自由にできない高齢者が多い</p>	<p>○高齢者の交通手段をサポートする体制の検討(再掲)</p>

【櫛引地域】

<p>【その他】</p> <p>①農業後継者が減少しており、将来の農業経営に不安を感じている</p> <p>②櫛引の特色である果樹栽培などの優れた技術の継承が途絶えることへの不安がある</p>	<p>○若手生産者への支援</p> <p>○果樹栽培の中核的な担い手の育成</p>
--	---

3 基本方針に定める「目指すコミュニティ像」の実現に向け、地域コミュニティが抱える課題

(1) 自治組織が抱える組織上・運営上の課題

①単位自治組織

<組織上の課題>

現状、問題意識	課題項目
【市民の意識】 ①組織の合理化を進め、事業が流れ作業的に進むようになった反面、集まる機会が減り、集落としての一体感が希薄になってきた	○多くの世代が集まれる総会のシステム検討
【会員】 ①高齢化が進んでいる ②世帯数の減少も進んでおり、会員も減少してきている	
【役員】 ①役員の高齢化が進んでいる ②次世代層が少ないなどなり手がおらず、役員が不足、固定化してきた ⑤他団体のあて職が多く負担になっている	○近隣自治会との連携／協力による組織体制の見直し ○研修等でのリーダーの育成 ○任期を長期化させない仕組みづくり ○行政の依頼や団体業務の見直し(負担軽減) ○役員への財政面での支援
【会費・資金】 ①高齢化・世帯数減少により事業委託費・会費負担が増加傾向にある ②高齢化・世帯数減少による会費収入が減少傾向である ③施設老朽化により会費徴収が増加している	○共同作業の範囲・分野の見直し ○組織運営の見直し ○負担方法の見直し ○交付金・補助金の活用
【組織の規模】 ①	
【他の地域組織との関わり】 ①敬老会や運動会等の共催事業における自治会間の連携・協力体制の低下がみられる	○各自治会への問題提起と体制の強化
【行政との関わり】 ①行政からの依頼業務が多く役員の負担となる	○負担軽減化に向けた行政との調整
【その他】 ①	

＜運営上の課題＞

現状、問題意識	課題項目
【組織の役割・機能】 ①しきたり等の若者への引継ぎがなく、組織の機能自体が薄れてきている	○若者が楽しめるコミュニティ事業の検討
【事業参加】 ①事業への出席者が少ない	○幅広い年代を対象にした事業の展開
【事業日程】 ①	
【事業企画】 ①各年代から新しい事業に対する要望が挙がっている	○子供から高齢者まで集える世代間交流事業の開催
【事業運営】 ①個々の集落で行ってきた事業が過疎や高齢化の進行で実施困難となることが予想される	○事業内容を精査し、近隣の集落と共同して行うなど実施方法を検討する
【生涯学習(公民館活動)】 ①	
【福祉】 ①	
【防犯・防災】 ①若者の減少で消防団員の欠員がみられる	○団の連携・合併の検討
【生活環境整備】 ①高齢化・世帯減少により農林道・水路の整備作業範囲が狭まってきた、または労力負担が増加傾向 ②高齢化・世帯減少により公民館・社寺の雪囲い・雪下ろし作業が困難になってきた ③休日のたびに整備作業があるような状態で、労力だけでなく精神的にも負担が大きい	○整備作業範囲の見直し ○業者委託による作業の軽減化の検討、負担に対する行政支援 ○施設改修による作業の軽減化 ○各種交付金事業の活用
【財産管理】 ①公民館や遊具などの施設が老朽化してきた ②共有地や地縁団体の名義が古くなっており問題となっている	○交付金・補助金の活用 ○土地所有者の洗い出しと更新
【情報伝達・収集】 ①	
【行政との関わり】 ①過疎化高齢化が深刻な地域では地区の自助努力にも限界があるため、交付金など従来の金銭的支援ではない直接的な支援が必要	○行政による労働力の提供や機器の貸与などの検討
【その他】 ①	

(2) 地域（住民）が抱える課題

現状、問題意識	課題項目
【地域連帯感の希薄化、帰属意識の低下】 ①勤務体系や生活リズムの違いから若者との交流が少なく、地域とのつながりや近所との付き合いが少ない	○スポーツ事業など若者参加型の事業の開催
【高齢化の進展(高齢者の増加)】 ①高齢化世帯では自身での除雪作業が困難となっている ②高齢化により運転できなくなった場合など、買い物・通院の移動手段確保に不安がある	○除排雪サービス体制の事業化検討 ○除雪パートナーズ等の既存サービスの活用 ○福祉団体等の移送サービスの活用 ○宅配や移動販売の利用 ○バス定期券助成・巡回バス運行支援の継続
【少子化の進展(子どもの減少)、子育て環境の変化】 ①子供が少なく、保育園や学校、集落の存続に不安 ②子育て世帯の減少で学校 PTA や子ども会、交通安全母の会等の役割が増え負担となっている	○行政の少子化対策促進 ○自治会等での子育て環境の構築 ○近隣地域の団体との連携や合併の検討
【晩婚化、未婚化の進展】 ①中高年層の未婚者が多い	○地域・自治会等で出会いの機会創出を企画する
【若者の流出】 ①現農業者がいつまで農業を継続できるか不安 ②農家世帯の後継者が将来定住してくれるか不安 ③地域内に就労の場が少ないため、後継者が流出している	○集落営農や機械利用組合の設立と継続 ○地域資源を活かした中山間地農業の確立 ○地域内の新たな就労の場の創出 ○全集落实態調査により世帯後継者の将来の定住化を探る
【日中人口の減少】 ①自治消防団員の不在状態により、火災・災害対応に不安	○自主防災組織活動への支援 ○消防団OBの活用、協力員の増員
【地域伝統芸能文化の継承】 ①演者の高齢化と若者不足による消滅の危機がある ②長らく行われていない伝統の復活への要望	○消滅させないよう、口伝だけによらず録画などで保存していく
【地域団体の活力低下、多様化】 ①	
【空き家の増加】 ①空き家の購入者の得度が知れず不安である	
【地域交通の不便さ】 ①定期バス路線があってもバス停が遠い集落の住民は利用しない、できない ②集落内の県道が狭く長年課題となっている ③深夜から早朝の道路の積雪が通勤時間問題である	○世帯が協力し合っでの自動車乗合いの検討 ○路線バスの存続問題と合わせて、デマンド型交通や全国の過疎中山間地の交通形態について調査研究を行う ○市を通し継続要望していく ○除雪の回数や時間帯についての検討を要請

<p>【その他】</p> <p>①農作物の鳥獣被害が多く、特にひどい地域では耕作をやめる者もでてきた</p> <p>②他所から来ての山菜盗難が多い</p> <p>③撤退や廃業により近場に店舗がなくなり不便に</p>	<p>○鳥獣被害防止対策協議会との連携協力</p> <p>○被害防止器具購入補助の活用</p> <p>○猟友会員の育成と駆除体制の確保</p> <p>○警察のパトロールや声かけの実施</p> <p>○特に市街地住民の、山菜や私有地山林に対する認識不足を解消する必要がある</p> <p>○宅配や移動販売の利用</p>
---	--

3 基本方針に定める「目指すコミュニティ像」の実現に向け、地域コミュニティが抱える課題

(1) 自治組織が抱える組織上・運営上の課題

①単位自治組織

<組織上の課題>

現状、問題意識	課題項目
【市民の意識】 ①特に大きい集落だと、すべての面において他人任せになっている ②小さい集落だと何か提案すると自分がすることになるので発言がしにくい ③世代間におけるコミュニティ意識のズレがある	○社会教育の推進 ○自治会活動の必要性の周知 ○世代間交流の推進
【会員】 ①特に大きい集落では、転出転入等の情報が入手できないので会員の把握ができない場合がある	○個人情報保護と会員把握の方策
【役員】 ①役員のなり手が少なくなっており、同じ人が長年にわたり役を務めたり兼務したりしている ②老人クラブ、婦人会の会長のなり手がなく解散しているところもある ③会社の定年延長、再雇用等により高齢者が仕事をできるようになり役員のなり手が少なくなった ④自治会長の業務が多岐にわたり多すぎる ⑤自治会長の任務が仕事をしながらでもできるようにしなくてはならない	○リーダー等の人材育成 ○役員負担軽減 ○会議、行事等の効率的な開催
【会費・資金】 ①市町村合併後、市街地の町内会費と比較し、地元の自治会費が高いと思う人が多くなった ②高齢者世帯を中心に自治会費の負担が大きくなり自治会費の見直しを行ったところもある ③過疎化により世帯が減少し自治会費収入が少なくなり予算規模が小さくなった ④大きな自治会においては、自治会費の未納や滞納傾向にあり、他への影響が懸念される ⑤生活保護世帯、生活困窮者世帯の自治会費を軽減している ⑥所得等により会費を決めている所があるが、所得の把握の困難や不公平感があり、会費の見直しを行っているところもある	○自治会費の内容及び必要性の周知 ○高齢者世帯の減免対応 ○事業の見直しによる予算の縮減 ○公的助成制度の利活用 ○コミュニティビジネスの検討 ○自治会費の未納・滞納対策 ○生活困窮者世帯への対応 ○自治会費の公平性の保持

<p>【組織の規模】 ①21 世帯未満の集落が 4 つあり、今後の集落の存続が懸念される</p>	<p>○極小集落への支援 ○自治会の統合再編の検討</p>
<p>【他の地域組織との関わり】 ①老人クラブや婦人会は、上部団体への参加を嫌う傾向にある</p>	<p>○上部団体との連携強化 ○参加しやすい事業の検討</p>
<p>【行政との関わり】 ①鶴岡での会議が増え負担が多くなった ②行政の会議が多すぎる</p>	<p>○行政に対する会議等の効率化と簡素化の要請</p>
<p>【その他】 ①神社、寺の修繕に伴い多額の負担金を求められる場合がある</p>	<p>○計画的な修繕費等の積立</p>

< 運営上の課題 >

現状、問題意識	課題項目
<p>【組織の役割・機能】 ①自治公民活動の再確認が必要と思われる</p>	<p>○自治公民館活動の見直し</p>
<p>【事業参加】 ①三交代勤務、サービス業従事者の増加により夜勤や休日勤務が増え活動に影響が出ている ②少子化、過疎化により事業への参加者が少なくなっている</p>	<p>○仕事と事業への相互理解</p>
<p>【事業日程】 ①スポーツ少年団の活動が多く、日程調整が難しい</p>	<p>○スポーツ少年団との調整</p>
<p>【事業企画】 ①事業のマンネリ化が進んでいる</p>	<p>○原因の分析及び目標設定 ○ニーズの把握</p>
<p>【事業運営】 ①子供が少なく子供神輿ができなくなった</p>	<p>○祭典運営体制の見直し</p>
<p>【生涯学習(公民館活動)】 ①参加者が少なくなってきた</p>	<p>○事業への再認識と工夫</p>
<p>【福祉】 ①要援護者の個人情報の把握ができない場合がある</p>	<p>○近隣者による情報の把握</p>
<p>【防犯・防災】 ①地域内に職場が少なく、地域外に就労しており日中には、ほとんど消防団員がいない状況である ②地理的に集落が点在しており、土砂災害により孤立の恐れが心配である</p>	<p>○自主防災組織の強化 ○消防団OBの活用 ○女性、高齢者の初期消火訓練の推進 ○災害時における集落の孤立対策 ○要支援者カードの作成</p>

<p>【生活環境整備】</p> <p>①毎年、海岸集落は海岸清掃を行っているが漂流物が増え小さい集落では対応できない</p> <p>②側溝掃除、海岸清掃等の共同作業に参加できないのにしない人が増えてきているので出不足金を徴収するか検討しているところもある</p> <p>③住民の高齢化により共同作業に参加できる人が少なくなった。草刈りなど危険が伴う作業は免除しなくてはならない</p>	<p>○海岸の漂流ごみ対策</p> <p>○共同作業への参加の推進</p> <p>○共同作業体制の検討</p>
<p>【財産管理】</p> <p>①築後 30 年を経過した自治公民館が多く、修繕や施設管理費が多くなった</p> <p>②広い集落では、有線放送設備の配線等の修繕費が多額で財政的に困っている</p> <p>③相続登記が行われていないために、役員等の名義不動産の自治会への所有権移転登記ができない</p> <p>④自治会所有している、山林の境界がわかる人がいなくなった</p> <p>⑤公民館・神社等の清掃、雪下ろし、雪囲い等の共同作業が人口減少や高齢化により困難になってきた</p>	<p>○施設の維持管理計画の策定及び修繕費の積立</p> <p>○自治公民館の維持管理費の節約</p> <p>○有線放送設備の代替設備の検討</p> <p>○自治会所有の山林、土地等の財産台帳の整備</p> <p>○共同作業の委託化、ボランティア導入等の検討</p>
<p>【情報伝達・収集】</p> <p>①色々な分野で、行政から情報を提供されない場合が多くなった</p>	<p>○独自の情報収集体制の確立</p>
<p>【行政との関わり】</p> <p>①行政と自治会との役割や仕事の区分が不明確な場合がある</p>	<p>○役割の明確化</p>
<p>【その他】</p> <p>①温海地域以外の自治会、町内会との違いの理解ができない場合が多い</p> <p>②繰越金が少なく、4・5 月支払のために銀行から借り入れを行っている</p>	<p>○組織の相違点の学習</p> <p>○財政の健全化</p> <p>○年度当初の運営費の確保</p>

(2) 地域（住民）が抱える課題

現状、問題意識	課題項目
<p>【地域連帯感の希薄化、帰属意識の低下】</p> <p>①同級生とは交流するが、目上の人との交流を避ける傾向にある</p> <p>②農繁期の「結い」や冠婚葬祭時の「契約講」もほとんど無くなり隣近所の付き合いが希薄になった</p>	<p>○世代間交流の推進</p> <p>○近所・隣組での交流会の実施</p>

<p>【高齢化の進展(高齢者の増加)】</p> <p>①高齢化率が39.2%になったが、団塊世代の高齢化により更に加速されると思われる</p> <p>②老老介護が始まっている</p> <p>③高齢者は、以前からあった集落内の商店がなくなり買い物が不便になった</p> <p>④高齢者を狙った振り込め詐欺、悪質訪問販売が増えており、実際に振り込め詐欺を未然に防いだ事件があった</p> <p>⑤災害時における高齢者等の災害弱者の避難体制の確立が急がれる</p> <p>⑥高齢者世帯の雪下ろしが困難になってきた</p>	<p>○超高齢化社会への対応策</p> <p>○老老介護への対応</p> <p>○高齢者の買い物対策</p> <p>○振り込め詐欺、悪質訪問販売の対策強化</p> <p>○高齢者の災害時の対応</p> <p>○除雪ボランティアなど支援体制の確立</p>
<p>【少子化の進展(子どもの減少)、子育て環境の変化】</p> <p>①外で遊んでいる子供を見ることがなくなった</p> <p>②集落内の子供がどこの家の子かわからなくなった</p> <p>③自然に親しむことがないため、海の子が魚、海産物の名前、山の子が山菜の名前を知らなくなった</p> <p>④小学校の統廃合により、地域の文化を学ぶ機会が少なくなる</p>	<p>○子供の自然体験の推進</p> <p>○地域の残る伝統文化の継承</p>
<p>【晩婚化、未婚化の進展】</p> <p>①農村部に限らず晩婚や未婚が増えている</p>	<p>○若者・男女の交流の場、出会いの場の確保</p> <p>○若者の職場の確保</p> <p>○若者のスポーツの推進</p>
<p>【若者の流出】</p> <p>①一度は都会に出て、その後Uターンしてくるが仕事がないと再び出ていく</p> <p>②仕事が無いと「とじこもり」や「ニート」のような片寄せた生活をおくる若者が増えた</p> <p>③結婚や子供の小学校入学を契機に転出する</p>	<p>○再転出の防止対策</p> <p>○地元の仕事の創出</p> <p>○Uターンした若者の受入態勢の検討</p> <p>○青年が主体の交流活動の推進</p>
<p>【日中人口の減少】</p> <p>①地域外への職場に勤める人が多いため、日中の人口が少なく、その間の防災体制に不安がある</p>	<p>○企業誘致等による職場の確保</p> <p>○新規事業、観光産業の推進</p> <p>○隣近所の見守り体制の強化</p>
<p>【地域伝統芸能文化の継承】</p> <p>①伝統芸能・祭典が数日にわたって行われる際、会社から休暇がもらえない場合がある</p> <p>②祭典等で羽織・袴・理容・美容等に係る経費が負担になっている</p> <p>③祭典等の役回りに高齢者が応じられなくなり継承が危ぶまれている</p> <p>④高齢化により途絶えてしまった伝統芸能文化も多い</p>	<p>○祭典等への参加体制の検討</p> <p>○祭典の工夫と簡素化</p> <p>○地域に継承されてきた伝統芸能文化の記録保存</p>
<p>【地域団体の活力低下、多様化】</p> <p>①多種多様のサークル・団体等はあるが、それらを連携し活用できていない</p>	<p>○総合コーディネーターやネットワークシステムの確立</p>

【温海地域】

<p>【空き家の増加】</p> <p>①大きい集落においては、50軒もあり、防災・防犯・衛生面から管理に苦慮している</p> <p>②土地も含め空き家も売却したいが相手方が見つからない現状である</p> <p>③台風、地震においては、老朽化した空き家が心配される</p> <p>④廃業した旅館が観光地のマイナスイメージになる</p>	<p>○空き家管理体制の確立</p> <p>○危険空き家の把握とその対応策の検討</p> <p>○空き家や廃業旅館の利用促進</p>
<p>【地域交通の不便さ】</p> <p>①高齢者は、バスの運行数が少なくなり通院、買い物等が不便になった</p> <p>②バス利用が減少していることで、いつバス事業者から運行廃止されるか不安</p>	<p>○利用しやすいバス運行体系の検討</p> <p>○バスに替る交通機関の検討</p>
<p>【その他】</p> <p>①サルの被害が増え耕作意欲をなくす農家が増えている</p> <p>②農家が少なくなり、農業用水路の管理や、農業生産組合、機械利用組合の存続も難しくなってきた</p> <p>③これまであった医療機関がなくなり緊急時の対応が心配される</p>	<p>○行政、自治会と連携した鳥獣被害対策の実施</p> <p>○農家の所得向上対策の推進</p> <p>○耕作放棄地の防止対策</p> <p>○中山間部の医療体制の確立</p> <p>○隣近所の見守りの重要性</p>